

宇野弘蔵 著作目録^{*†}

柴崎 慎也 編

本目録は、日本のマルクス経済学者である宇野弘蔵（1897.11.12～1977.2.22）の著作目録である。

宇野の研究者としてのキャリアは、1921年5月に大原社会問題研究所に助手として入所したことから始まる。翌年9月からのヨーロッパ留学を経て、1924年10月に東北帝国大学助教授となり、同大学法文学部において「経済政策論」を担当した。1938年2月、労農派教授グループ事件（第二次人民戦線事件）に連坐して検挙。1940年12月に第二審無罪の判決を受けた。1941年1月、東北帝国大学を辞職したのち、同年3月から日本貿易研究所に、1944年7月からは三菱経済研究所に勤務。1947年1月、東京帝国大学社会科学研究所嘱託、同年6月には東京帝国大学教授となり、同大学社会科学研究所にて定年をむかえる1958年3月まで勤務した。

1958年4月、法政大学社会学部教授に就任。1968年3月に定年により同大学を辞したのち、同年6月から1972年3月まで立正大学経済研究所に嘱託として勤務。同年5月に脳梗塞で倒れ、病臥生活をおくったのち、1977年2月22日に藤沢市鵠沼の自宅で79年の生涯を終えた。

宇野はその生涯において、『経済原論（上・下）』（岩波書店、1950・52年）、『恐慌論』（岩波書店、1953年）、『経済学方法論』（東京大学出版会、1962年）、『経済政策論 改訂版』（弘文堂、1971年）といった主著をはじめ、多くの著作を発表した。その成果は『宇野弘蔵著作集』（全10巻・別巻1、岩波書店、1973・74年）としてまとめられ、その『別巻』には詳細な「宇野弘蔵 著作目録」が付されている。

もっとも、この『著作集』版の「著作目録」は完全なものではない。本目録の編者はこれに掲載されていない著作物を、多くの方からの助力をえて、これまでに数多く発見してきた。その数は百を超え、なかには宇野の実質的なデビュー作ともいいう文献や、1930年代の検挙直前の文献、GHQによる検閲の対象となった座談会記録など、宇野弘蔵の思索をとらえるうえでの重要文献が多く含まれている。とくに宇野理論の形成期にあたる1920年代から40年代にかけて、新たに発見された文献はきわめて多い。

本目録は、1921年から現在に至るまで、宇野が関わっている著作物を、現時点で編者が知りえた限りにおいてすべて網羅している。新たに発見された文献のほとんどは、これまで一般にはおろか、宇野学派の研究者にあってもおそらくは知悉されていない。その意味で本目録は、いまから半世紀前に発表された『著作集』版「著作目録」の大幅な改訂版であり、かつ決定版である。

こうした決定版としての目録作成の目的は、激動の時代を生き抜いた一人の思索家の姿を浮かび上がらせるとともに、それが放つ現代的な意義をとらえることにある。

本目録を一瞥すれば分かるように、宇野は経済学に関する著作物を数多く残した文字通り

の経済学者であると同時に、大学、研究所、ときには刑務所とさまざまに場所をうつしながら社会科学全般について思索した社会科学者でもある。さらには、数多の魅力的なエッセイを残し文学にも精通していた人文・社会科学者でもあり、座談の名人とも形容されるおしゃべり好きの、まさに知の巨人と形容できる人物であった。多数発見された幅広いジャンルにわたる文献は、知の巨人としての宇野弘蔵という人物像を裏付けるものといえよう。

こうした思索家は現代ではほとんどみられなくなった。専門が細分化される現代において、知もまたパズルのピースのごとくバラバラになり、一つの巨像として大成することはまれになった。成果主義の跋扈は、積み重ねられてきた基礎的な知への敬意を欠いた似非科学をはびこらせている。このような状況の現代に、宇野は本目録に刻まれたその生涯と全著作をもって、その知の体系の圧倒的な頑強さをさまざまと突きつけている。それは、木をみて森をみぬ愚にたいする戒めであり、ローマは一日にして成らずを地でいくことの偉大さを彷彿させる。

本目録では、宇野の思索のプロセスを可能な限り浮き彫りにすることを意図し、著作物を発行年月日順に古いものから配列している。宇野理論とよばれる堅牢無比の知の体系も、遡上すれば校正や翻訳といった営為がその口開けである。いま宇野弘蔵に学ぶことは、2027年の没後五十年にして、これまで以上に新たな発見を得ることになろう。

凡 例

1. 本目録について

- ア) 本目録は、日本のマルクス経済学者である宇野弘蔵（1897.11.12～1977.2.22）の著作目録である。
- イ) 本目録の作成にあたっては、『宇野弘蔵著作集 別巻』（岩波書店、1974年）に収録の「宇野弘蔵 著作目録」を参考とし、これに新たに発見された著作物を追加し、あわせて記載事項に訂正をくわえている。
- ウ) 本目録では、宇野弘蔵のクレジットが確認できる著作物にくわえ、クレジットが確認できないものについても、宇野が自身の著作において関わっていることに言及しているもの、『宇野弘蔵著作集 別巻』の「宇野弘蔵 著作目録」に記載されているものは、著作物として掲載している。なお、クレジットが確認できない著作物については注を付し、掲載事由を記載している。
- エ) 本目録に掲載した著作物のうち、次のものについては初出稿の確認がとれていない、あるいは不完全にしかとれていないため、確認できる記載事項のみを示している。「ヴァルガ著『世界経済恐慌史』を読む——恐慌史の明確な把握に便」（1937年11月）、「食糧需給と今後の問題」（1945年9月）、「経済学に求めるもの」（1948年6月）、「日本における経済学の履歴書としての大内兵衛著『私の履歴書』」（1951年9月）、「『栗原百寿著作集』刊行によせて」（1974年4月）。

2. 配列

- ア) 著作物は発行年月日順に古いものから配列している。
- イ) 発行月日の記載のないもの、不明なものは、各年月の末尾に配列している。
- ウ) 年度の記載しかないものは、当該年度はじめの年の末尾に配列している。
- エ) 財団法人統計研究会に関する著作物のうち、『農業統計研究部会資料(1)～(11)』および『農業統計研究資料(12)～(36)』の発行年月日については、『統計研究会20年史』(統計研究会、1968年3月)の「作成資料一覧」および『宇野弘蔵著作集別巻』の「宇野弘蔵 著作目録」にしたがっている¹⁾。

3. 記載事項

- ア) 各著作物の記載事項は、タイトル、所載刊行物名・出版社、巻号数、所載ページないし所載面、発行年月日、(備考)である。
- イ) 所載刊行物名、巻号数、所載ページないし所載面については、書籍以外の著作物に限る。
- ウ) シリーズ名がある著作物は、シリーズ名を〈 〉で付している。
- エ) 【 】内は、『宇野弘蔵著作集』(全10巻・別巻1、岩波書店、1973・74年)の収録巻を示している。
- オ) ★は、『宇野弘蔵著作集』に未収録の著作物であることを示している²⁾。
- カ) 巷号数、所載ページないし所載面、発行年月日については、アラビア数字で表記する。その他は、各著作物の表記にしたがっている。
- キ) すべての項目(人名含む)について、旧字は新字に改めている。

4. タイトルについて

- ア) 書籍(所載刊行物をふくむ)のタイトルは、カバー、表紙、扉、奥付のうち、もっとも詳細な表記にしたがっている。
- イ) 書籍を除く著作物のタイトルは、所載刊行物の目次に記載されているタイトルではなく、本文の表記にしたがっている。
- ウ) 書籍に収録される際、タイトルに変更がくわえられている著作物に関しては、改題後のタイトルを備考欄に記載している。
- エ) タイトルおよび所載刊行物名の副題の表記は、——で統一している。

1920 年代

1921 年

ピアトリス, ポッター (シドニー・ウェップ夫人) 著・久留間鯨造訳『消費組合発達史論 (英
国協同組合運動)』〈大原社会問題研究所叢書 No.4〉, 同人社書店, 1921 年 11 月 28 日,
(校正, 附録「シドニー・ウェップ氏夫妻の著書」の作成), (クレジットなし³⁾). ★

1922 年

ベー・ルードナー著「労働組合問題の世界政策的提案」, 『大原社会問題研究所パンフレット』大原社会問題研究所出版部, No.3, pp.54-61, 1922 年 8 月 1 日, (翻訳). ★
「英國に於ける幼児保護策」, 『大原社会問題研究所パンフレット』大原社会問題研究所出版
部, No.4, pp.39-55, 1922 年 9 月 1 日, (共訳), (萩原久興との共同クレジット). ★
「労農露国の無産児保護策」, 『大原社会問題研究所パンフレット』大原社会問題研究所出版
部, No.4, pp.56-66, 1922 年 9 月 1 日, (共訳), (萩原久興との共同クレジット). ★

1923 年

シドニ, エンド, ベアトリス・ウェップ著・高野岩三郎訳『産業民主制論 上巻』〈大原
社会問題研究所叢書 No.7〉, 大原社会問題研究所出版部, 1923 年 6 月 20 日, (共訳),
(クレジットなし⁴⁾). ★

1927 年

マルクス著・玉城肇訳『トマス・ホデスキン批判——『剩余価値学説史』中の一節』, 叢
文閣, 1927 年 10 月 10 日, (校閲). ★
シドニ並びにピアトリス・ウェップ原著・高野岩三郎纂訳『産業民主制論』〈大原社会問
題研究所叢書 No.7〉, 同人社書店, 1927 年 11 月 20 日, (久留間鯨造・越智道順・山
村喬・山名義鶴との共訳). ★

1928 年

「序文 史的唯物論に就て (一八九二年——エンゲルス)」, 『マルクス＝エンゲルス全集
第十二巻』改造社, pp.583-603, 1928 年 8 月 5 日, (翻訳). ★

1929 年

「道学的批判と批判的道徳 (マルクス)」, 『マルクス＝エンゲルス全集 第三巻』改造社,
pp.364-386, 1929 年 7 月 8 日, (翻訳). ★
「経済学入門書の推薦」, 『社会科学』改造社, 第 5 卷第 2 号, p.240, 1929 年 9 月 1 日, (質
問に対する回答). ★
「社会科学文献批評 経済学一般 高田保馬『経済学』(日本評論社)」, 『社会科学』改造社,
第 5 卷第 2 号, pp.262-269, 1929 年 9 月 1 日. ★

1930年代

1930年

内藤赳夫編『邦訳マルクス＝エンゲルス文献』〈大原社会問題研究所アルヒーフ No.3〉,

同人社書店, 1930年4月20日, (助言). ★

「『貨幣の必然性』——ヒルファデイングの貨幣理論再考察」, 『社会科学』改造社, 第6卷第1号, pp.1-30, 1930年6月8日, (「『貨幣の必然性』——ヒルファデイングの貨幣理論再考察」と改題し『資本論の研究』に収録), (「『貨幣の必然性』——ヒルファデイングの貨幣理論再考察」と再改題し【3】に収録).

1931年

「賃銀・利潤・地代」, 『中央公論』中央公論社, 第46年第1号(第516号), pp.附録137-附録141, 1931年1月1日, (「賃金・利潤・地代」と改題し【5】に収録).

「昭和六年三月施行の東京, 京都, 東北, 九州各帝大法学部・法文学部試験問題 東北帝国大学法文学部之部 社会政策 経済政策」, 『法律時報』日本評論社, 第3卷第6号, pp.95-96, 1931年6月1日. ★

『資本論体系 中』〈経済学全集第十一卷〉, 改造社, 1931年10月20日, (山田盛太郎との共著), (「資本の変態とその循環」, 「資本の回転」は【5】). ★

「資本の変態とその循環」, 宇野弘蔵・山田盛太郎著『資本論体系 中』〈経済学全集第十一卷〉改造社, pp.9-105, 1931年10月20日. 【5】

「資本の回転」, 宇野弘蔵・山田盛太郎著『資本論体系 中』〈経済学全集第十一卷〉改造社, pp.107-253, 1931年10月20日. 【5】

1932年

「昭和七年三月施行の東京, 京都, 東北, 九州各帝大法学部・法文学部試験問題 東北帝国大学法文学部 経済政策」, 『法律時報』日本評論社, 第4卷第5号, p.62, 1932年5月5日. ★

「マルクス再生産論の基本的考察——マルクスの『経済表』」, 『中央公論』中央公論社, 第47年第12号(第539号), pp.2-27, 1932年11月1日, (「再生産表式論の基本的考察——マルクスの『経済表』」と改題し『資本論の研究』に収録), (「再生産表式論の基本的考察——マルクスの『経済表』」と再改題し【3】に収録).

1933年

「山本實彦著『満鮮』——識者の批判に見よ」, 『短歌研究』改造社, 第2卷第1号, 頁数記載なし, 1933年1月1日, (献本に対する返信). ★

「東京, 京都, 東北, 九州各帝大法学部・法文学部試験問題(昭和八年三月施行) 経済諸政策 社会政策」, 『法律時報』日本評論社, 第5卷第5号, p.91, 1933年5月1日. ★

1934年

- 「東京、京都、東北、九州各帝大法学部・法文学部試験問題（昭和九年三月施行） 経済諸政策」、『法律時報』日本評論社、第6卷第5号、pp.87-88、1934年5月1日。★
- 「フリードリッヒ・リストの『経済学』——『経済学の国民的体系』」、『十周年記念 経済論集 東北帝国大学法文学部』岩波書店、pp.375-438、1934年9月20日、（『社会科学の根本問題』に収録）。【7】
- 東北帝国大学経済学会編『研究年報 経済学』、岩波書店、第1号、1934年12月5日、（「編集者代表者」としてクレジット）。★
- 「ブレンターノとディール——穀物関税に関する彼等の争論について」、東北帝国大学経済学会編『研究年報 経済学』岩波書店、第1号、pp.153-190、1934年12月5日。【8】

1935年

- 「資本制社会に於ける恐慌の必然性」、『改造』改造社、第17卷第2号、pp.2-19、1935年2月1日、（『資本論の研究』に収録）、（「資本制社会における恐慌の必然性」と改題し【3】に収録）。
- 「東京、京都、東北、九州各帝大法学部・法文学部試験問題（昭和十年三月施行） 経済政策」、『法律時報』日本評論社、第7卷第5号、p.72、1935年5月1日。★
- 東北帝国大学経済学会編『研究年報 経済学』、岩波書店、第2号、1935年5月10日、（「編集者代表者」としてクレジット）。★
- 「ドイツ社会政策学会の関税論——一九〇一年の大会に於ける報告並に討議」、東北帝国大学経済学会編『研究年報 経済学』岩波書店、第2号、pp.146-172、1935年5月10日、（「ドイツ社会政策学会の関税論——一九〇一年の大会における報告並びに討議」と改題し【8】に収録）。
- 「経済政策の起源及性質に就て——スピノーザ哲学体系第三部「感情の起源及性質に就て」参照」、東北帝国大学経済学会編『研究年報 経済学』岩波書店、第2号付録『経済学会々報』、pp.1-2、1935年5月（発行日記載なし）、（『資本論』と私に収録）。★
- 「研究室便り」、東北帝国大学経済学会編『研究年報 経済学』岩波書店、第2号付録『経済学会々報』、p.2、1935年5月（発行日記載なし）、（質問に対する回答）。★
- 「資本主義の成立と農村分解の過程」、『中央公論』中央公論社、第50年第11号（第576号）、pp.2-22、1935年11月1日、（『農業問題序論』に収録）。【8】
- 東北帝国大学経済学会編『研究年報 経済学』、岩波書店、第3号、1935年11月10日、（「編集者代表者」としてクレジット）。★

1936年

- 「東京、京都、東北、九州各帝大法学部・法文学部試験問題（昭和十年度） 経済政策」、『法律時報』日本評論社、第8卷第5号、p.59、1936年5月1日。★
- 『経済政策論 上巻』、弘文堂書房、1936年5月10日。【7】
- 東北帝国大学経済学会編『研究年報 経済学』、岩波書店、第4号、1936年5月20日、（「編

集者代表者」としてクレジット). ★

「社会党の関税論——一八九八年ドイツ社会民主党大会に於ける論議を中心として」, 東北帝国大学経済学会編『研究年報 経済学』岩波書店, 第4号, pp.1-52, 1936年5月20日, (『農業問題序論』に収録), (「社会党の関税論——一八九八年ドイツ社会民主党大会における論議を中心として」と改題し【8】に収録).

東北帝国大学経済学会編『研究年報 経済学』, 岩波書店, 第5号, 1936年11月30日, (「編集者代表者」としてクレジット). ★

「『相対的剩余価値の概念』」, 東北帝国大学経済学会編『研究年報 経済学』岩波書店, 第5号, pp.17-45, 1936年11月30日, (『資本論の研究』に収録), (「相対的剩余価値の概念」と改題し【3】に収録).

「『犬・猫・人間』——猫は封建的である」, 『経済学友会報』東北帝国大学経済学友会, 第2号, pp.11-13, 1936年11月30日, (「犬・猫・人間——猫は封建的である」と改題し【別】に収録).

『昭和十一年度 経済原論 宇野助教授講述』, 東北帝大法文共済部, 1936年度(発行月日記載なし) (「講義プリント「経済原論」と改題し【別】に収録).

1937年

「東京, 京都, 東北, 九州各帝大法学部・法文学部試験問題(昭和十二年三月施行) 経済学 経済政策」, 『法律時報』日本評論社, 第9卷第5号, pp.99-100, 1937年5月1日. ★

「『日本工業統制論』——有沢広巳君の新著を読む」, 『帝国大学新聞』帝国大学新聞社, 第674号, 6面, 1937年5月17日, (書評). 【別】

東北帝国大学経済学会編『研究年報 経済学』, 岩波書店, 第6号, 1937年5月30日, (「編集代表者」としてクレジット). ★

「土屋喬雄氏『日本資本主義史論集』」, 『東京朝日新聞 朝刊』東京朝日新聞社, 第18437号, 4面, 1937年8月9日, (書評). 【別】

東北帝国大学経済学会編『研究年報 経済学』, 岩波書店, 第7号, 1937年11月15日, (「編集代表者」としてクレジット). ★

「『貨幣資本と現実的資本』」, 東北帝国大学経済学会編『研究年報 経済学』岩波書店, 第7号, pp.1-49, 1937年11月15日, (『資本論の研究』に収録), (「貨幣資本と現実的資本」と改題し【3】に収録).

「宇野先生を囲む 経済学入門 座談会」, 『経済学友会報』東北帝国大学経済学友会, 第3号, pp.56-60, 1937年11月20日, (座談会の速記録の要約). ★

「ヴァルガ著『世界経済恐慌史』を読む——恐慌史の明確な把握に便」, 『東北帝国大学新聞』東北帝国大学新聞会, 第20号, 面数不明, 1937年11月29日, (書評), (「ヴァルガ著『世界経済恐慌史』を読む」と改題し【別】に収録).

1938年

「東京, 京都, 東北, 九州各帝大法学部・法文学部試験問題(昭和十三年三月施行) 経済

政策」, 『法律時報』日本評論社, 第10卷第5号, p.67, 1938年5月1日. ★

1940年代

1940年

「大政翼賛への熱願」, 『仙台市公報』仙台市役所, 第136号, p.13, 1940年12月1日, (質問に対する回答). ★

1941年

「附録 高等試験及ビ各大学重要試験問題集 東北帝國大学」, 普文学会編纂『工業政策要覧』(法律要覧叢書第廿七編), 清水書店, pp.272-273, 1941年1月8日. ★

バジヨット著『ロンバード街——ロンドンの金融市場』(岩波文庫 2709-2711), 岩波書店, 1941年5月24日, (翻訳), (「あとがき」は【別】). ★

「あとがき」, バジヨット著・宇野弘蔵訳『ロンバード街——ロンドンの金融市場』(岩波文庫 2709-2711) 岩波書店, pp.343-347, 1941年5月24日, (「訳者あとがき」と改題し【別】に収録).

『ナチス歐州新秩序と國際貿易關係』(調査彙報第二集), 日本貿易振興協会, 1941年7月19日, (「発行者」としてクレジット).

『今次大戦迄の独逸對外貿易とナチス政府の貿易政策』(調査彙報第四集), 日本貿易振興協会, 1941年9月5日, (「発行者」としてクレジット). ★

『日本アフガニスタン通商懇談会報告』, 日本貿易振興協会, 1941年9月20日, (「発行者」としてクレジット). ★

『戦時下佛蘭西の経済情勢』(調査彙報第五集), 日本貿易振興協会, 1941年11月9日, (「発行者」としてクレジット). ★

『戦時貿易対策要覧 第一部 英帝国 自昭和十五年三月 至昭和十五年八月』, 日本貿易振興協会, 1941年12月31日, (「発行者」としてクレジット). ★

1942年

『戦時貿易対策要覧 第二部 欧州大陸並に近東諸国及び其の属領 自昭和十五年三月 至昭和十五年八月』, 日本貿易振興協会, 1942年1月14日, (「発行者」としてクレジット). ★

『欧羅巴広域經濟に於ける白耳義及び和蘭の地位』(調査彙報第八集), 日本貿易振興協会, 1942年1月22日, (「発行者」としてクレジット). ★

『戦時貿易対策要覧 第三部 米国及中南米 自昭和十五年三月 至昭和十五年八月』, 日本貿易振興協会, 1942年1月31日, (「発行者」としてクレジット). ★

日本經濟連盟会調査課編『物価政策に関する研究』, 生活社, 1942年2月1日, (「時局対策調査委員会 第一委員会(財政問題小委員会) 第三分科会(浮動購買力吸收対策)補佐」としてクレジット). ★

高橋亀吉氏述『世界経済の変革と貿易の前途』(講演第七集), 日本貿易振興協会, 1942年2月26日, (「発行者」としてクレジット). ★
貿易局編纂『世界主要国貿易統計年表——蘭領印度(1940年度) 新西蘭(1939年度)』, 日本貿易振興協会, 1942年3月5日, (「発行者」としてクレジット). ★
『一九四〇年度 戦時貿易対策概観——今次欧州戦争の各国貿易政策に及ぼせる影響』(資料第五集), 日本貿易振興協会, 1942年4月5日, (「発行者」としてクレジット). ★
『米州広域経済の難点——附録 輸出入銀行の対中南米工作』(資料第六集), 日本貿易振興協会, 1942年6月10日, (「発行者」としてクレジット). ★
『広域経済と通商政策——今後の通商政策に於ける最恵主義, 多辺制, 相互制に就いて』(資料第七集), 日本貿易振興協会, 1942年6月17日, (「発行者」としてクレジット). ★
『統制経済と対外貿易——対外経済の分野に於ける自主的経済発展の確保に就いて』(資料第八集), 日本貿易振興協会, 1942年7月14日, (「発行者」としてクレジット). ★
貿易局編纂『世界主要国貿易統計年表——独逸(1938年度) 佛蘭西(1938年度)』, 日本貿易振興協会, 1942年9月5日, (「発行者」としてクレジット). ★
日本貿易振興協会日本貿易研究所編『輸出ブラシ工業 中巻』(日本貿易産業叢書第二集), 大同書院, 1942年11月15日, (クレジットなし⁵⁾). ★

1943年

『加奈陀の貿易及び貿易政策—— 加奈陀産業の英米依存』(調査彙報第十一集), 日本貿易振興協会, 1943年2月25日, (「発行者」としてクレジット). ★
貿易局編纂『世界主要国貿易統計年表——佛領印度支那(1937-1939年度)』, 日本貿易振興協会, 1943年3月20日, (「発行者」としてクレジット). ★
『世界経済理論報告会記録』, 世界経済調査会, 1943年5月10日, (討論). ★
日本貿易振興協会日本貿易研究所編『大東亜交易基本統計表』, 栗田書店, 1943年5月20日, (「編著者代表者」としてクレジット). ★
『戦時貿易対策要覧 第一部 英帝国 自昭和十五年九月 至昭和十六年二月』, 日本貿易振興協会, 1943年6月30日, (「発行者」としてクレジット). ★
シユーマッヘル編纂・日本貿易振興協会日本貿易研究所訳『捕鯨』(世界貿易産業研究叢書第一), 栗田書店, 1943年10月20日, (監訳), (「訳者」としてクレジット). ★
シユーマッヘル編纂・日本貿易振興協会日本貿易研究所訳『生糸』(世界貿易産業研究叢書第二), 栗田書店, 1943年10月30日, (監訳), (「著者」としてクレジット). ★
シユーマッヘル編纂・日本貿易振興協会日本貿易研究所訳『ゴム』(世界貿易産業研究叢書第三), 栗田書店, 1943年10月30日, (監訳), (「訳者」としてクレジット). ★

1944年

日本貿易振興協会日本貿易研究所著『糖業より見たる広域経済の研究』, 栗田書店, 1944年1月20日, (「編著者代表」としてクレジット), (「序」「序論」「結語」は【8】). ★
「序」, 日本貿易振興協会日本貿易研究所著『糖業より見たる広域経済の研究』栗田書店,

pp. 1-5, 1944 年 1 月 20 日. 【8】

「序論」, 日本貿易振興協会日本貿易研究所著『糖業より見たる広域経済の研究』栗田書店,

pp. 1-34, 1944 年 1 月 20 日. 【8】

「結語」, 日本貿易振興協会日本貿易研究所著『糖業より見たる広域経済の研究』栗田書店,

pp. 451-462, 1944 年 1 月 20 日. 【8】

『戦時貿易対策要覧 第三部 米国及中南米 自昭和十五年九月 至昭和十六年二月』, 日本貿易振興協会, 1944 年 2 月 20 日, (「著者代表者」としてクレジット). ★

『加奈陀の貿易及び貿易政策 後篇——対英米関係より見たる加奈陀の貿易政策』(調査彙報第十三集), 日本貿易振興協会, 1944 年 5 月 15 日, (「著者代表者」としてクレジット). ★

大原社会問題研究所編・マイヤ著・高野岩三郎訳『社会生活に於ける合法則性』(統計学古典選集 第十卷), 第一出版株式会社, 1944 年 5 月 20 日, (底訳). ★

『第二回世界経済理論報告会記録』, 世界経済調査会, 1944 年 11 月 20 日, (討論). ★

1945 年

「食糧需給と今後の問題」, 『戦後問題研究報告 (其二)』三菱経済研究所, 頁数不明, 1945 年 9 月 (発行日不明). 【8】

「自小作形態検討の要——我が国農業の『封建制』の究明」, 『大学新聞』大学新聞社, 第 44 号, 3 面, 1945 年 11 月 11 日, (「自小作農形態の特殊性」と改題し『農業問題序論』に収録). 【8】

調査研究動員本部編『調査研究動員本部業績概要』, 調査研究動員本部, 1945 年 11 月 (発行日記載なし), (「基本計画設定準備委員会委員」「総第五委員会 (我が経済国力の緊急基礎研究) 委員」としてクレジット). ★

「刻下の食糧問題」, 『本邦財界情勢』三菱経済研究所, 第 198 号, pp. 19-23, 1945 年 12 月 16 日. 【8】

1946 年

外務省調査局第三課編『特別調査委員会報告 日本経済再建ノ基本問題——前篇 日本経済再建ノ前提 (未定稿)』(調査資料第五号), 外務省調査局, 1946 年 1 月 (発行日記載なし), (「外務省特別調査委員会メンバー」としてクレジット). ★

「日本経済再建の方途」(特別調査委員会中間報告), 『経済資料 第四集——「附 日本経済再建ノ方途」』外務省調査局, pp. 1-29, 1946 年 1 月 (発行日記載なし), (「外務省調査局特別調査委員会委員」としてクレジット). ★

「日本経済の特殊性」, 『経済資料 第四集——「附 日本経済再建ノ方途」』外務省調査局, 経済資料第 73 号, pp. 144-146, 1946 年 1 月 (発行日記載なし). ★

「日本政治経済の変革——その過程と動向」, 『評論』河出書房, 創刊号, pp. 40-63, 1946 年 2 月 1 日, (座談会). ★

「国内経済の動向 概観」, 『本邦財界情勢』三菱経済研究所, 第 201 号, pp. 1-6, 1946 年

3月13日. 【8】

外務省調査局第三課編『特別調査委員会報告 日本經濟再建ノ基本問題——後篇 日本經濟再建ノ方策（未定稿）』（調査資料第六号），外務省調査局，1946年3月（発行日記載なし），（「外務省特別調査委員会メンバー」としてクレジット）。★

外務省特別調査委員会編『特別調査委員会報告 日本經濟再建ノ基本問題』（調査資料第九号），外務省調査局，1946年3月（発行日記載なし），（「外務省特別調査委員会メンバー」としてクレジット）。★

外務省特別調査委員会編『特別調査委員会報告 日本經濟再建の基本問題』（調査資料第九号），外務省調査局，1946年3月（発行日記載なし），（「外務省特別調査委員会メンバー」としてクレジット）。★

「危機經濟打開の方途」，『改造』改造社，第27卷第4号，pp.34-50，1946年4月1日，（座談会）。★

「国内經濟 概観」，『本邦財界情勢』三菱經濟研究所，第202号，pp.1-2，1946年4月13日. 【8】

「こんな世の中になつたらと思ふ」，『文明』文明社，第1卷第4号，p.40，1946年5月1日，（質問に対する回答）。★

「資本主義の組織化と民主主義」，『世界』岩波書店，第5号，pp.16-28，1946年5月1日. 【8】

「我が國農村の封建性」，『改造』改造社，第27卷第5号，pp.9-15，1946年5月1日，（『農業問題序論』に収録），（「わが國農村の封建性」と改題し【8】に収録）。

「国内經濟 概観」，『本邦財界情勢』三菱經濟研究所，第203号，pp.2-4，1946年5月13日. 【8】

「国内經濟 概観」，『本邦財界情勢』三菱經濟研究所，第204号，pp.1-2，1946年6月13日. 【8】

「経済学の任務」，『朝日評論』朝日新聞社，第1卷第5号，pp.32-40，1946年7月1日，（『資本論の研究』に収録）。【3】

「生産再開の論理」，『評論』河出書房，第5号，pp.24-31，1946年7月1日. 【8】

「国内經濟 概観」，『本邦財界情勢』三菱經濟研究所，第205号，pp.1-2，1946年7月13日. 【8】

「インフレか・デフレか」，『毎日新聞 朝刊』毎日新聞社（東京），第25195号，2面，1946年8月11日，（座談会）。★

「国内經濟 概観」，『本邦財界情勢』三菱經濟研究所，第206号，pp.1-2，1946年8月13日. 【8】

「国内經濟 概観」，『本邦財界情勢』三菱經濟研究所，第207号，pp.1-2，1946年9月13日. 【8】

外務省特別調査委員会編『外務省特別調査委員会報告 改訂 日本經濟再建の基本問題』，外務省調査局，1946年9月（発行日記載なし），（「外務省特別調査委員会メンバー」としてクレジット）。★

「経済安定の概念」，『評論』河出書房，第7号，pp.2-10，1946年10月1日. 【8】

「国内経済 概観」,『経済情勢』三菱経済研究所, 第 208 号, pp. 1-2, 1946 年 10 月 13 日. 【8】
「国内経済 概観」,『経済情勢』三菱経済研究所, 第 209 号, pp. 1-2, 1946 年 11 月 13 日. 【8】
「資本論研究の最高水準——河上肇著『資本論入門』」,『書評』日本出版協会, 創刊号,
pp. 32-34, 1946 年 12 月 1 日, (書評), (『河上肇著『資本論入門』』と改題し【別】に収録).
「経済民主化と産業社会化」,『新生』新生社, 第 2 卷第 12 号, pp. 24-28, 1946 年 12 月 1 日. 【8】
「国内経済 概観」,『経済情勢』三菱経済研究所, 第 210 号, pp. 1-3, 1946 年 12 月 13 日. 【8】
『宇野弘蔵講師述 経済政策論』, 東北帝国大学経済研究会, 1946 年 12 月 16 日 (日付は
終講日). ★

1947 年

「こうすれば日本産業は立ち直る」,『河北新報 朝刊』河北新報社, 第 18011 号, 2, 4 面,
1947 年 1 月 1 日, (座談会). ★
「私の読んだ『資本論』」,『評論』河出書房, 第 9 号, pp. 65-68, 1947 年 1 月 1 日. 【別】
「資本論研究——第一回」,『評論』河出書房, 第 9 号, pp. 69-98, 1947 年 1 月 1 日, (座談会),
(『資本論の成立と発展』と改題し『資本論研究——商品及交換過程』に収録). ★
「日本資本主義の前途を語る」,『世界経済評論』総合アメリカ研究所, 第 2 卷第 1 号,
pp. 22-31, 1947 年 1 月 1 日, (座談会), (GHQ 検閲文書, 未公刊). ★
「昭和二十一年国内経済情勢 概観」,『経済情勢』三菱経済研究所, 第 211 号, pp. 2-5,
1947 年 1 月 13 日. 【8】
「所謂経済外強制について」,『思想』岩波書店, 第 274 号, pp. 2-17, 1947 年 2 月 1 日, (『農
業問題序論』に収録), (『いわゆる経済外強制について』と改題し【8】に収録).
「資本論研究——第二回」,『評論』河出書房, 第 10 号, pp. 43-74, 1947 年 2 月 1 日, (座
談会), (『価値法則』と改題し『資本論研究——商品及交換過程』に収録). ★
「農業民主化の基本問題」,『朝日評論』朝日新聞東京本社, 第 2 卷第 2 号, pp. 4-23, 1947
年 2 月 1 日, (共同研究会). ★
「国内経済 概観」,『経済情勢』三菱経済研究所, 第 212 号, pp. 1-2, 1947 年 2 月 13 日. 【8】
「「我国農村の封建性」について——井上晴丸氏の批判に答ふ」,『文化新聞』文化新聞社,
第 45 号, 2-3 面, 1947 年 2 月 17 日, (『井上晴丸氏の批判に答ふ』と改題し『農業問
題序論』に収録), (『井上晴丸氏の批判に答う』と再改題し【8】に収録).
「『型』を永久化するな——封建論争再燃に就て」,『早稲田大学新聞』早稲田大学新聞会,
第 22 号, 2 面, 1947 年 2 月 21 日, (『『型』を永久化するな』と改題し『農業問題序論』
に収録), (『『型』を永久化するな』と再改題し【8】に収録).
「資本論研究——第三回」,『評論』河出書房, 第 11 号, pp. 21-50, 1947 年 3 月 1 日, (座
談会), (『価値形態』と改題し『資本論研究——商品及交換過程』に収録). ★
「資本論研究——第四回」,『評論』河出書房, 第 12 号, pp. 37-64, 1947 年 4 月 1 日, (座
談会), (『価値形態の発展と交換過程』と改題し『資本論研究——商品及交換過程』
に収録). ★
「日本国勢統計図表 (昭和 21 年 10 月調)」,『朝日年鑑』朝日新聞社, 1947 年版, 頁数記

載なし, 1947年4月30日, (図表の作成), (クレジットなし⁶), (『『資本論』と私』に一部収録). ★

「経済学に於ける科学と思想」, 『世界文化』大地書房, 第2巻第2号, pp.4-11, 1947年5月1日, (『資本論の研究』に収録), (『経済学における科学と思想』と改題し【3】に収録).

『昭和15年 産業人口分布統計表』(経済構造特別研究室資料 No.1), 商工省調査統計局調査課, 1947年6月(発行日記載なし), (監修). ★

「資本論研究——第五回」, 『評論』河出書房, 第13号, pp.37-64, 1947年7月1日, (座談会), (『商品の物神性』と改題し『資本論研究——商品及交換過程』に収録). ★

「資本論研究——第六回」, 『評論』河出書房, 第14号, pp.43-64, 1947年9月1日, (座談会), (『価値の尺度』と改題し『資本論研究——流通過程』に収録). ★

「資本論研究——流通手段」, 『評論』河出書房, 第15号, pp.37-64, 1947年10月1日, (座談会), (『流通手段』と改題し『資本論研究——流通過程』に収録). ★

『昭和5年 労働人口配置状況』(経済構造特別研究室資料 No.2), 商工省調査統計局調査課, 1947年10月(発行日記載なし), (監修). ★

「資本論研究——貨幣」, 『評論』河出書房, 第16号, pp.39-55, 1947年11月1日, (座談会), (『貨幣』と改題し『資本論研究——流通過程』に収録). ★

『農業問題序論』, 改造社, 1947年11月20日. 【8】

「農業問題序論」, 宇野弘蔵著『農業問題序論』改造社, pp.3-23, 1947年11月20日. 【8】

「わが師わが友——経・大内兵衛教授」, 『東京大学新聞』東京大学新聞社, 第1050号, 1面, 1947年11月27日, (『わが師わが友——大内兵衛教授』と改題し【別】に収録).

「通貨の過剰と資金の不足」, 『改造』改造社, 第28巻第12号, pp.4-11, 1947年12月1日. 【5】

『価値論』(社会主義経済学III), 河出書房, 1947年12月25日. 【3】

『昭和20年末における産業人口の分布』(経済構造特別研究室資料 No.3), 商工省調査統計局調査課, (発行年月日記載なし), (監修), (クレジットなし⁷). ★

1948年

「資本論研究——貨幣の資本化」, 『評論』河出書房, 第17号, pp.45-64, 1948年1月1日, (座談会), (『貨幣の資本化』と改題し『資本論研究——流通過程』に収録). ★

「思想の言葉」, 『思想』岩波書店, 第283号, pp.34-35, 1948年1月20日, (『KEU』名義で執筆), (『インテリゲンチャと社会主義』と題し『社会科学の根本問題』に収録), (『思想の言葉』として【10】に収録).

『資本論入門』(社会科学研究叢書1), 白日書院, 1948年1月25日, (『はしがき』は★). 【6】

「社会科学の客觀性——マクス・ウェーバーの『理想型』について」, 東京大学社会科学協会編『社会科学研究』白日書院, 第1巻第1号, pp.2-22, 1948年2月10日, (『社会科学の客觀性——マクス・ウェーバーの『理想型』について』と改題し『社会科学の根本問題』に収録). 【10】

『経済政策論 上巻』, 弘文堂書房, 1948年2月15日, (再刊). 【7】

- 「この人のこの研究に期待する（ハガキ回答）」、『文藝春秋』文藝春秋新社、第26卷第3号、p.27、1948年3月1日。★
- 「『資本論』による社会科学的方法の確立」、『評論』河出書房、第19号、pp.1-12、1948年3月1日、（「『資本論』による社会科学的方法の確立」と改題し『資本論の研究』に収録）。【3】
- 「“僕たちの経済学”座談会」、『評論』河出書房、第19号、pp.27-39、1948年3月1日、（座談会）。★
- 『昭和15年 産業人口の職業上の地位』〈経済構造特別研究室資料 No.4〉、商工省調査統計局調査課、1948年3月（発行日記載なし）、（監修）。★
- 「労働力なる商品の特殊性について」、『唯物史観』河出書房、第2号、pp.1-15、1948年4月15日、（『価値論の研究』に収録）。【3】
- 「社会主義経済の実態」、『思索』思索社、第10号、pp.2-18、1948年5月1日、（座談会）。★
- 社会主義教育協会編『社会主義講座 第一巻——思想 社会主義とは何か』、三元社、1948年5月15日、（『編集顧問』としてクレジット）。★
- 「30の椅子——名人肌の学者 久留間鮫造氏」、『世界日報』世界日報社、第639号、p.2、1948年5月20日、（「30の椅子——久留間鮫造氏」と改題し【別】に収録）。
- 「経済学に求めるもの」、『東北学生新聞』東北大学新聞社、号数不明、面数不明、1948年6月5日（『資本論の研究』に収録）。【3】
- 社会主義教育協会編『社会主義講座 第三巻——経済Ⅱ 世界経済の行方』、三元社、1948年6月20日、（『編集顧問』としてクレジット）。★
- 『日本における農業と資本主義』、実業之日本社、1948年6月30日、（鈴木鴻一郎・大内力・斎藤晴造との共同研究）、（「はしがき」は【別】）。★
- 社会主義教育協会編『社会主義講座 第六巻——政治Ⅱ 国家 憲法 議会 政党』、三元社、1948年7月15日、（『編集顧問』としてクレジット）。★
- 「思想の言葉」、『思想』岩波書店、第290号、pp.54-55、1948年8月20日、（「KEU」名義で執筆）、（「社会主義と『資本論』」と題し『社会科学の根本問題』に収録）、（「思想の言葉」として【10】に収録）。
- 社会主義教育協会編『社会主義講座 第七巻——政治Ⅲ 日本政治の変革過程』、三元社、1948年8月25日、（『編集顧問』としてクレジット）。★
- 社会主義教育協会編『社会主義講座 第二巻——経済Ⅰ 社会主義の経済学』、三元社、1948年10月25日、（『編集顧問』としてクレジット）。★
- 社会主義教育協会編『社会主義講座 第八巻——法律 革命と法律』、三元社、1948年10月25日、（『編集顧問』としてクレジット）。★
- 「『資本論』は如何に論ぜらるべきか——一匿名氏の拙著『価値論』に対する批評に答う」、『経済評論』日本評論社、第3巻第11号、pp.13-26、1948年11月1日、（「『資本論』は如何に論ぜらるべきか——一匿名氏の批評に答う」と改題し『価値論の研究』に収録）、（「『資本論』はいかに論ぜらるべきか——一匿名氏の批評に答う」と再改題し【3】に収録）。

- 『資本論研究——商品及交換過程』, 河出書房, 1948年11月25日, (向坂逸郎との共編). ★
社会主義教育協会編『社会主義講座 第十一卷——思想 労働問題研究』, 三元社, 1948
年11月30日, (『編集顧問』としてクレジット). ★
「通貨と資金」, 久留間鯨造編纂者代表『インフレーション・統計発達史』(高野岩三郎先
生喜寿記念論文集1) 第一出版株式会社, pp.5-31, 1948年11月30日. 【5】
「『資本論』と社会主義」, 『経済』経済社, 第2卷第12号, pp.4-8, 1948年12月1日,
(『『資本論』と私』に収録). ★

1949年

- 社会主義教育協会編『社会主義講座 第九卷——国際問題 国際政治と民族問題』, 三元社,
1949年1月15日, (『編集顧問』としてクレジット). ★
社会主義教育協会編『社会主義講座 第十六卷——哲学II 現代哲学批判』, 三元社,
1949年1月25日, (『編集顧問』としてクレジット). ★
『農業部門に於ける資本の発展の統計的測定について』(附)日本農業の構造把握のための
統計体系試案』(農業統計研究部会資料(一)), 統計研究会, 1949年1月(発行日記
載なし), (監修), (『研究参加者』としてクレジット). ★
「理論と実践」, 『表現』角川書店, 第2卷第2号, pp.59-68, 1949年2月1日, (『『資本論』
と社会主義』に収録). 【10】
「思想の言葉」, 『思想』岩波書店, 第296号, pp.50-51, 1949年2月5日, (『KEU』名義
で執筆), (『唯物論と経済学』と題し『社会科学の根本問題』に収録), (『思想の言葉』
として【10】に収録).
社会主義教育協会編『社会主義講座 第二十卷——婦人問題 婦人問題』, 三元社, 1949
年2月15日, (『編集顧問』としてクレジット). ★
『資本論研究——流通過程』, 河出書房, 1949年2月20日, (向坂逸郎との共編). ★
『戦後日本農業の変化に関する統計指標——(一)零細化・小自作化傾向について (二)
兼業專業及収入別農家の構成変化について』(農業統計研究部会資料(二)), 統計研究
会, 1949年2月(発行日記載なし), (監修), (『研究参加者』としてクレジット). ★
社会主義教育協会編『社会主義講座 第十四卷——技術 技術論 技術史』, 三元社, 1949
年3月30日, (『編集顧問』としてクレジット). ★
『日本農業に於ける停滞性分析の指標について——第一次・第二次報告からの若干の結論』
(農業統計研究部会資料(三)), 統計研究会, 1949年3月(発行日記載なし), (監修),
(『研究参加者』としてクレジット). ★
『資本論の研究』, 岩波書店, 1949年4月25日. 【3】
「価値論の方法について——宮川実氏の批評に答う」, 『評論』河出書房, 第32号, pp.73
-83, 1949年5月1日, (『価値論の研究』に収録). 【3】
「経済学の三十年」, 『世界週報』時事通信社, 第30卷第18号, pp.36-49, 1949年5月
11日, (座談会). ★
『資本論入門——第二卷解説』(社会科学研究叢書5), 白日書院, 1949年5月30日. 【6】

- 日本放送協会編『自由人の声』, 刀江書院, 1949年5月30日, (「執筆者」としてクレジット). ★
- 「歴史的必然性と主体的行動」, 『表現』角川書店, 第2卷第6号, pp. 2-12, 1949年7月1日, (『『資本論』と社会主義』に収録). 【10】
- 社会主義教育協会編『社会主義講座 第十九卷——日本歴史 日本史の基本的展開』, 三元社, 1949年7月5日, (「編集顧問」としてクレジット). ★
- 『農産物価格の問題点——一. 市場と価格について. 二. 国内価格と国際価格.』(農業統計研究部会資料(四)), 統計研究会, 1949年8月(発行日記載なし), (監修), (「共同研究参加者」としてクレジット). ★
- 「思想の言葉」, 『思想』岩波書店, 第303号, pp. 37-38, 1949年9月5日, (「KEU」名義で執筆), (「唯物史観と『資本論』」と題し『社会科学の根本問題』に収録), (『思想の言葉』として【10】に収録).
- 『「日本農業構造の統計的分析」要綱とその問題点』(農業統計研究部会資料(五)), 統計研究会, 1949年9月(発行日記載なし), (監修), (「主査」としてクレジット). ★
- 「政治的実践と日常的実践——若き経済学者に与う」, 『評論』河出書房, 第37号, pp. 52-61, 1949年11月1日, (「政治的実践と日常的実践」と改題し『『資本論』と社会主義』に収録). 【10】
- 「向坂逸郎著『経済学方法論』(第一分冊)」, 『評論』河出書房, 第37号, pp. 64-65, 1949年11月1日, (書評). 【別】
- 「『価値論』について——迫間真治郎氏の読後感に答ふ」, 『経済学研究』紀元社, 第3集, pp. 59-68, 1949年11月15日, (『『価値論』について——迫間真治郎氏の読後感に答う』と改題し『価値論の研究』に収録). 【3】
- 『資本』, 河出書房編集部編『社会科学辞典』河出書房, pp. 272-282, 1949年11月30日. 【別】
- 「マルクスの草稿『資本制生産に先行する諸形態』を読む」, 『図書』岩波書店, 復刊第1号, pp. 17-18, 1949年11月(発行日記載なし), (書評). 【別】
- 「歴史はくりかえす」, 『真相』人民社, 第4卷第12号(通巻第36号), p. 5, 1949年12月1日, (コメント). ★
- 社会主義教育協会編『社会主義講座 第五卷——政治I 現代政治思想批判』, 三元社, 1949年12月5日, (「編集顧問」としてクレジット). ★

1950年代

1950年

- 『「日本農業構造の統計的分析」細目の研究』(農業統計研究部会資料(六)), 統計研究会, 1950年1月(発行日記載なし), (監修), (「主査」としてクレジット). ★
- 『供出制度下の農家経済分析は如何になさるべきか』(農業統計研究部会資料(七)), 統計研究会, 1950年1月(発行日記載なし), (監修), (「主査」としてクレジット). ★
- 『『思想の自由』と『思想からの自由』——マックス・ウェーバー「職業としての学問」へ

- の批判」,『日本評論』日本評論社, 第25巻第2号, pp.35-44, 1950年2月1日, (「「思想の自由」と「思想からの自由」——マックス・ウェーバー『職業としての学問』への批判」と改題し『社会科学の根本問題』に収録). 【10】
- 「社会科学とは何か」,『郵政』郵政省人事部訓練課, 第2巻第2号, pp.41-45, 1950年2月1日. 【9】
- 「小泉信三氏のマルクス批評」,『展望』筑摩書房, 第51号, pp.18-25, 1950年3月1日. 【10】
- 「私の読書遍歴——“遍歴”に入らぬ『資本論』卒業したかった講談の世界」,『日本読書新聞』日本出版協会, 第531号, 4面, 1950年3月1日, (「遍歴に入らぬ『資本論』」と改題し, 日本読書新聞編『私の読書遍歴』黎明書房, 1952年11月に収録), (「私の読書遍歴」と再改題し【別】に収録).
- 「経済学者の実践——若き経済学者に与う」,『評論』河出書房, 第42号, pp.25-31, 1950年4月1日, (「経済学者の実践」と改題し『『資本論』と社会主義』に収録). 【10】
- 「『経済学の方法』について」,東京大学社会科学協会編『社会科学研究』日本評論社, 第2巻第1号, pp.1-29, 1950年4月5日, (『価値論の研究』に収録), (「『経済学の方法』について」と改題し【3】に収録).
- 『農業恐慌に関する指標について』〈農業統計研究部会資料(八)〉, 統計研究会, 1950年4月(発行日記載なし), (監修), (「主査」としてクレジット). ★
- 『農業統計部会』,『昭和二十四年度研究部業務報告書』統計研究会, pp.9-11, 1950年4月(発行日記載なし), (「主査」としてクレジット). ★
- 「河上肇を語る」,『書物』美松書房, 創刊号, pp.14-28, 1950年5月1日, (座談会). ★
- 「『資本論』の弁証法——遊部久蔵・長洲一二両氏の批評に関する連して」,『思想』岩波書店, 第312号, pp.11-21, 1950年6月5日, (『価値論の研究』に収録). 【3】
- 『農業危機と農業恐慌』〈農業統計研究部会資料(九)〉, 統計研究会, 1950年6月(発行日記載なし), (監修), (「主査」としてクレジット). ★
- 「価値形態論の課題——久留間教授の批評に答う」,『経済評論』日本評論社, 第5巻第7号, pp.73-83, 1950年7月1日, (『価値論の研究』に収録). 【3】
- 「世界経済論の方法と目標」,『世界経済』世界経済調査会, 第5巻第7号, pp.54-61, 1950年7月1日, (『社会科学の根本問題』に収録). 【9】
- 「社会科学における研究の自由——若き経済学者に与うる書」,『改造』改造社, 第31巻第9号, pp.52-59, 1950年9月1日, (「社会科学における研究の自由」と改題し『『資本論』と社会主義』に収録). 【10】
- 『農村経済の再生産構造表示の方法』〈農業統計研究部会資料(十)〉, 統計研究会, 1950年9月(発行日記載なし), (監修), (クレジットなし⁸⁾). ★
- 「日本資本主義の性格をめぐって その一 日本資本主義論争とは何か」,『社会科学の基礎理論』〈社会科学講座I〉弘文堂, 社会科学講座の葉No.1, pp.1-3, 1950年10月15日, (「日本資本主義論争とは何か」と改題し【別】に収録).
- 「杉本栄一著【近代経済学の解説】(中巻)——“説き方が疑問だ” 第三章「基本性格」を中心に……」,『図書新聞』図書新聞社, 第67号, 3面, 1950年10月18日, (書評),

- 〔「杉本栄一著『近代経済学の解明』(中巻)」と改題し【別】に収録).
「三度びドッジ氏を迎えて——安定政策とその後の問題」,『経済評論』日本評論社, 第5卷第11号, pp.22-42, 1950年11月1日, (座談会). ★
高島善哉・古在由重・高桑純夫・中村元編『世界思想辞典』, 河出書房, 1950年11月15日, (「執筆者」としてクレジット). ★
「社会科学はどうして出来たか」, 弘文堂編集部編『社会科学の諸系譜』(社会科学講座第Ⅱ巻)弘文堂, pp.1-20, 1950年11月25日, (『社会科学のために』に収録), (『社会科学はどうしてできたか』と改題し『社会科学としての経済学』および『『資本論』と私』に収録). 【9】
「戦後経済学界の成果と課題」,『経済評論』日本評論社, 第5卷第12号, pp.35-60, 1950年12月1日, (座談会). ★
『経済原論 上巻』, 岩波書店, 1950年12月15日. 【1】
「日本農業統計体系の研究並に日本農業における限界生産規模及び生産費の統計的研究」,『昭和二十五年度 財団法人統計研究会概要』統計研究会, p.10, 1950年度(発行月記載なし), (「農業統計研究部会主査」としてクレジット). ★

1951年

- 「弔辞」,『嘉信』嘉信社, 第14卷第30号(第159号), pp.3-5, 1951年3月20日, (藤井立編『藤井洋の面影』嘉信社, 1955年5月に収録. のちに, 「藤井洋君を悼む」と改題し, 宇野弘蔵・藤井洋著・降旗節雄編『現代資本主義の原型』こぶし書房, 1997年12月に収録). ★
「シェンペーターとスキージー」,『読書人』東京堂, 復刊第1号, pp.17-18, 1951年4月5日, (「シェンペーターとスヴィージー」と改題し【別】に収録).
「学問と実際」,『部報』法政大学通信教育部, 第35号, pp.10-12, 1951年4月(発行月記載なし). 【10】
『農業所得及び農業生産力の分析に関する統計資料』(農業統計研究部会資料(11)), 統計研究会, 1951年4月(発行月記載なし), (監修), (クレジットなし⁹). ★
「思想の言葉」,『思想』岩波書店, 第323号, pp.68-69, 1951年5月5日, (〔K・E・U〕名義で執筆), (「社会科学としての国家論」と題し『社会科学の根本問題』に収録), (『思想の言葉』として【10】に収録).
「農地委員会(その二)」, 東京大学社会科学研究所編『行政委員会——理論・歴史・実態』日本評論社, pp.45-67, 1951年5月15日, (調査の立案および取纏め). ★
『日本農業構造の統計的計測とその諸問題』(農業統計研究資料(12)), 統計研究会, 1951年5月(発行月記載なし), (監修), (「農業統計研究部会主査」としてクレジット). ★
「農業統計研究部会」,『昭和二十五年度研究業務報告書』統計研究会, pp.19-25, 1951年5月(発行月記載なし), (「主査」としてクレジット). ★
大阪市立大学経済研究所編『経済学小辞典』, 岩波書店, 1951年6月20日, (「編集委員」としてクレジット). ★

- 「資本（その二）」、「資本の回転」、「資本の転形（変態）」、大阪市立大学経済研究所編『経済学小辞典』岩波書店、pp.419-422, pp.452-454, pp.460-461, 1951年6月20日、
（「資本（その二）」は「資本」と改題し【別】に収録）。【別】
- 『農産物価格に関する学説（一）』〈農業統計研究資料（十三）〉、統計研究会、1951年6月
(発行日記載なし)、(監修)、(クレジットなし¹⁰⁾)。★
- 「過渡期の取扱い方について」、『思想』岩波書店、第325号、pp.57-63、1951年7月5日、
（『社会科学の根本問題』に収録）。【9】
- 「ポール・M・スウェイジー著 資本主義発展の理論——真面目な科学的態度 マルクス
の学説から帝国主義論を展開」、『日本読書新聞』日本出版協会、第609号、2面、
1951年9月5日、(書評)、(「ポール・M・スウェイジー著『資本主義発展の理論』
と改題し【別】に収録)。
- 「日本における経済学の履歴書としての大内兵衛著『私の履歴書』」、『部報』法政大学通信
教育部、第40号、pp.2-4、1951年9月（発行日不明）、(「日本における経済学の履
歴書としての大内兵衛『私の履歴書』」と改題し【別】に収録)。
- 「時評」、『朝日新聞 朝刊』朝日新聞東京本社、第23570号、4面、1951年10月1日。【別】
「社会主義社会における自由——アメリカ社会主義者の討論に寄せて」、『思想』岩波書店、
第329号、pp.52-61、1951年11月5日、(『『資本論』と社会主義』に収録)。【10】
- 「インテリゲンチャ」、『文庫』岩波書店、第2号、pp.1-4、1951年11月10日、(『『資本論』
と私』に収録)。★
- 「安定経済下の農村経済の変貌」、『昭和二十六年度学校研究所等 農業経済関係調査研究
計画概要（第三集）』〈経済研究資料第七一号〉農林省農業改良局研究部（経済）、p.102、
1951年11月15日、(「担当主任者」としてクレジット)。★
- 「思想の言葉」、『思想』岩波書店、第330号、pp.78-81、1951年12月5日、(「KEU」名
義で執筆)、(「社会科学としての法律学」と題し『社会科学の根本問題』に収録)、(「思
想の言葉」として【10】に収録)。
- 「長野県西筑摩郡王滝村調査報告」、『社会科学研究』東京大学社会科学協会、第3巻第2号、
pp.68-109、1951年12月28日、(鈴木鴻一郎・加藤俊彦・武田隆夫・遠藤湘吉・大
内力との共著)、(「長野県西筑摩郡王滝村」と改題し、宇野弘蔵編『日本農村経済の
実態——安定経済下における』〈東京大学社会科学研究所研究報告 第十二集〉東京
大学出版会、1961年2月に収録。なお収録の際、初出稿の冒頭の宇野の執筆部分
pp.68-69は削除)。★
- 「農産物価格の統計的研究」、『昭和二十六年度 財團法人統計研究会概要』統計研究会、p.8、
1951年度（発行日記載なし）、(「農業統計研究部会主査」としてクレジット)。★

1952年

- 「日本農業と農業理論 鈴木鴻一郎著」、『毎日新聞 朝刊』毎日新聞社（東京）、第27184号、
2面、1952年2月2日、(書評)、(「鈴木鴻一郎著『日本農業と農業理論』」と改題し
【別】に収録)。

- 「『資本論』と恐慌論——経済学の方法をめぐって」, 『東京大学学生新聞』東京大学学生新聞会, 第 111 号, 2 面, 1952 年 2 月 14 日. 【5】
- 『経済原論 下巻』, 岩波書店, 1952 年 3 月 5 日. 【1】
- 「社会科学と政治」, 『思想』岩波書店, 第 334 号, pp. 16-25, 1952 年 3 月 10 日, (『社会科学のために』『社会科学の根本問題』に収録). 【10】
- 『農産物価格の統計的省察とその問題点——昭和二十六年度研究報告』〈農業統計研究資料(一四)〉, 統計研究会, 1952 年 3 月 (発行日記載なし), (監修), (「農業統計研究部会主査」としてクレジット). ★
- 「農業統計研究部会」, 『昭和二十六年度研究業務報告書』統計研究会, pp. 45-51, 1952 年 5 月 (発行日記載なし), (「主査」としてクレジット). ★
- 「ものにならなかつた浅草調査」, 『図書』岩波書店, 第 33 号, pp. 13-15, 1952 年 6 月 5 日. 【別】
- 「はしがき」, 東京大学社会科学研究所編『戦後宅地住宅の実態』〈宅地住宅総合研究 1〉東京大学出版会, p. i, 1952 年 6 月 20 日. ★
- 「『資本論』における恐慌理論の難点」, 東京大学社会科学協会編『社会科学研究』有斐閣, 第 3 卷第 3 号, pp. 25-38, 1952 年 6 月 30 日. 【5】
- 『社会科学のために』, 弘文堂, 1952 年 7 月 10 日, (「座談会——社会科学はどうあるべきか」★は『社会科学としての経済学』および『『資本論』と私』に収録). 【9, 10, 別】
- 「往復書簡 如何に学ぶべきか」, 『法政』法政大学, 第 1 卷第 3 号, pp. 11-12, 1952 年 7 月 25 日. ★
- 「再び『社会主義社会における自由』について」, 『思想』岩波書店, 第 338 号, pp. 58-60, 1952 年 8 月 10 日, (『社会主義社会における自由——アメリカ社会主義者の討論に寄せて』の「追記」として『『資本論』と社会主義』に収録), (「ふたたび『社会主義社会における自由』について」と改題し【10】に収録).
- 『資本論入門』〈創元文庫 E-6〉, 創元社, 1952 年 8 月 30 日, (新版), (「はしがき」は【別】). 【6】
- 「推薦状」(1952 年 9 月 10 日), 大島清・松井保男編『栗原百寿——その人と憶い出』栗原百寿追憶文集刊行会, pp. 143-144, 1966 年 4 月 30 日. ★
- 『価値論の研究』, 東京大学出版会, 1952 年 9 月 20 日. 【3】
- 「『資本論』における恐慌の必然的根拠の論証について」, 一橋大学経済研究所編『経済研究』岩波書店, 第 3 卷第 4 号, pp. 269-276, 1952 年 10 月 1 日, (英文要約あり pp. 353-354). 【5】
- 「思想の言葉」, 『思想』岩波書店, 第 340 号, pp. 96-97, 1952 年 10 月 10 日, (「K・E・U」名義で執筆), (「戦争と社会科学」と題し『社会科学の根本問題』に収録), (「思想の言葉」として【10】に収録).
- 「経済学は役にたったか」, 『経済評論』日本評論新社, 復刊第 1 卷 (通巻 7 卷) 第 11 号, pp. 89-106, 1952 年 11 月 1 日, (座談会). ★
- 『経済原論 V——恐慌論』, 法政大学通信教育部, 1952 年 11 月 30 日. 【5】
- 「『資本論』の学び方——山本二三丸・安部隆一両氏の批評に言及」, 民主主義科学者協会・

全日本学生社研連合編『講座 資本論の解説 第五分冊』理論社, pp.195-204, 1952年12月5日. 【3】

「農産物価格変動要因に関する統計的研究」, 『昭和二十七年度 財團法人統計研究会概要』統計研究会, p.10, 1952年度(発行月日記載なし), (「農業統計研究部会主査」としてクレジット). ★

1953年

「M・ドップ著 政治経済学と資本主義」, 『日本読書新聞』日本出版協会, 第681号, 2面, 1953年2月9日, (書評), (『M・ドップ著『政治経済学と資本主義』』と改題し【別】に収録).

『マルクス経済学の研究』(大内兵衛先生還暦記念論文集(上)), 岩波書店, 1953年2月14日, (有沢広巳・向坂逸郎との共編), (『商業資本と商業利潤』は【4】). ★

「商業資本と商業利潤」, 有沢広巳・宇野弘蔵・向坂逸郎編『マルクス経済学の研究』(大内兵衛先生還暦記念論文集(上)), 岩波書店, pp.157-185, 1953年2月14日, (『マルクス経済学原理論の研究』に収録). 【4】

「あとがき」, 有沢広巳・宇野弘蔵・向坂逸郎編『マルクス経済学の研究』(大内兵衛先生還暦記念論文集(上)), 岩波書店, pp.275-279, 1953年2月14日, (クレジットなし¹¹⁾). ★

「マルクス経済学と私 宇野弘蔵氏に聞く①【第一部 私の学問的遍歴】」, 『エコノミスト』毎日新聞社, 第31年第10号, pp.46-49, 1953年3月7日, (対談), (『マルクス経済学と私——宇野弘蔵氏に聞く 第一部 私の学問的遍歴』と改題し『『資本論』と私』に収録). ★

「マルクス経済学と私 宇野弘蔵氏に聞く②【第一部 私の学問的遍歴(続き)】」, 『エコノミスト』毎日新聞社, 第31年第11号, pp.46-49, 1953年3月14日, (対談), (『マルクス経済学と私——宇野弘蔵氏に聞く 第一部 私の学問的遍歴』と改題し『『資本論』と私』に収録). ★

『経済原論VI——恐慌論II』, 法政大学通信教育部, 1953年3月15日. 【5】

『経済原論B III——恐慌論II』, 法政大学通信教育部, 1953年3月15日. 【5】

「経済学における歴史と論理——宮川実氏の拙著『経済原論』に対する批評に答う」, 『研究年報 経済学』東北大学経済学会, 第27号, pp.1-23, 1953年3月20日, (『マルクス経済学原理論の研究』に収録). 【4】

「マルクス経済学と私 宇野弘蔵氏に聞く③【第二部 経済学の在り方】」, 『エコノミスト』毎日新聞社, 第31年第12号, pp.44-47, 1953年3月21日, (対談), (『マルクス経済学と私——宇野弘蔵氏に聞く 第二部 経済学の在り方』と改題し『『資本論』と私』に収録). ★

「マルクス経済学と私 宇野弘蔵氏に聞く(終回)【第二部 経済学の在り方(続き)】」, 『エコノミスト』毎日新聞社, 第31年第13号, pp.45-49, 1953年3月28日, (対談), (『マルクス経済学と私——宇野弘蔵氏に聞く 第二部 経済学の在り方』と改題し

『『資本論』と私』に収録). ★

「経済学研究の目標と方法」, 『経済学の研究入門』 日本評論新社, pp. 3-14, 1953年3月
30日, (『社会科学としての経済学』に収録). 【9】

「思想の言葉」, 『思想』 岩波書店, 第346号, pp. 74-75, 1953年4月10日, (『K・E・U』
名義で執筆), (『哲学の課題』と題し『社会科学の根本問題』に収録), (『思想の言葉』
として【10】に収録).

「農業統計研究部会」, 『昭和二十七年度研究業務報告書』 統計研究会, pp. 38-40, 1953年
6月 (発行日記載なし), (『主査』としてクレジット). ★

「『相対的剩余価値の概念』について——平田清明氏の批評に答う」, 『経済評論』 日本評論
新社, 復刊第2巻 (通巻8巻) 第7号, pp. 12-23, 1953年7月1日, (『相対的剩余
価値の概念』について——平田清明氏の批評に答う」と改題し『マルクス経済学原理
論の研究』に収録). 【4】

『恐慌論』, 岩波書店, 1953年9月15日. 【5】

「経済法則と社会主義——スターリンの所説に対する疑問」, 『思想』 岩波書店, 第352号,
pp. 91-106, 1953年10月5日, (『『資本論』と社会主義』に収録). 【10】

「利子論は如何に展開されるべきか——三宅義夫氏の拙著『経済原論』における利子論の
批評に答う」, 『立教経済学研究』 立教大学経済学研究会, 第7巻第1号, pp. 2-26,
1953年10月5日, (『マルクス経済学原理論の研究』に収録), (『利子論はいかに展
開されるべきか——三宅義夫氏の拙著『経済原論』における利子論の批評に答う』と
改題し【4】に収録).

「農業統計研究部会」, 『昭和二十八年度 財団法人統計研究会概要』 統計研究会, pp. 11-12,
1953年度 (発行月日記載なし), (『農業統計研究部会主査』としてクレジット). ★

1954年

「思想の言葉」, 『思想』 岩波書店, 第355号, pp. 96-99, 1954年1月5日, (『経済学の發
展とマルクス主義哲学』と題し『社会科学の根本問題』に収録), (『思想の言葉』と
して【10】に収録).

「私と文学」, 『文学』 岩波書店, 第22巻第1号, pp. 103-106, 1954年1月10日. ★

「恐慌論の問題点——拙著『恐慌論』の書評に関連して」, 『経済評論』 日本評論新社, 復
刊第3巻 (通巻9巻) 第3号, pp. 33-45, 1954年3月1日. 【5】

「向坂君の邦訳『資本論』の完成にあたって」, 『図書』 岩波書店, 第55号, pp. 2-4, 1954
年4月5日. 【別】

東京大学社会科学研究所編『林業経営と林業労働』, 農林統計協会, 1954年4月30日, (監
修), (『はしがき』『序論』『結語』は【8】). ★

『はしがき』, 宇野弘蔵監修・東京大学社会科学研究所編『林業経営と林業労働』 農林統計
協会, pp. 1-2, 1954年4月30日. 【8】

『序論』, 宇野弘蔵監修・東京大学社会科学研究所編『林業経営と林業労働』 農林統計協会,
pp. 1-3, 1954年4月30日. 【8】

- 「結語」, 宇野弘蔵監修・東京大学社会科学研究所編『林業経営と林業労働』農林統計協会, pp. 281-290, 1954年4月30日. 【8】
- 『農産物価格変動の理論的統計的研究——昭和二十八年度食糧庁委託調査報告書』(農業統計研究資料(一五)), 統計研究会, 1954年4月(発行日記載なし), (監修), (クレジットなし¹²). ★
- 「財団法人 統計研究会昭和29年度研究計画書 V. 農業統計研究部会」, 『統計情報』行政管理庁統計基準部, pp. 110-111, 1954年5月(発行日記載なし), (「農業統計研究部会主査」としてクレジット). ★
- 「マルクス経済学」, 『経済学事典』平凡社, pp. 1571-1574, 1954年6月25日. 【別】
- 「農業統計研究部会」, 『昭和二十八年度研究業務報告書』統計研究会, pp. 73-76, 1954年6月(発行日記載なし), (「主査」としてクレジット). ★
- 「長崎県経済統計研究委員会」, 『昭和二十八年度研究業務報告書』統計研究会, pp. 106-112, 1954年6月(発行日記載なし), (「委員」としてクレジット). ★
- 有沢広巳編『日本の生活水準』, 東京大学出版会, 1954年7月25日, (「生活水準研究小委員会メンバー」としてクレジット). ★
- 「『資本論』における利子論について——三宅義夫氏の非難に対する弁明」, 『社会科学研究』東京大学社会科学協会, 第5巻第1号, pp. 112-118, 1954年7月30日, (「『資本論』の利子論について——三宅義夫氏の非難に対する弁明」と改題し『マルクス経済学原論の研究』に収録). 【4】
- 「刊行の言葉」(1954年9月10日), 『日本農業年報VI——戦後農業理論の動向』中央公論社, p. 274, 1957年5月25日, (「監修者」としてクレジット). ★
- 「『経済学全集』刊行のことば」(わが著書を語る), 『Books』Booksの会, No. 55, pp. 15-16, 1954年11月5日, (有沢広巳・山田盛太郎・脇村義太郎との共同クレジット). ★
- 「資金論」, 『経済学論集』東京大学経済学会, 第23巻第1号, pp. 1-21, 1954年11月5日, (『マルクス経済学原論の研究』に収録). 【4】
- 『日本農業年報I——MSA体制下の日本農業』, 中央公論社, 1954年11月25日, (近藤康男・山田勝次郎・山田盛太郎との共同監修). ★
- 「序」, 『日本農業年報I——MSA体制下の日本農業』中央公論社, pp. 3-5, 1954年11月25日, (近藤康男・山田勝次郎・山田盛太郎との共同クレジット). ★
- 「序説」, 『日本農業年報I——MSA体制下の日本農業』中央公論社, pp. 3-9, 1954年11月25日. 【8】
- 「刊行のことば」, 有沢広巳・宇野弘蔵・山田盛太郎・脇村義太郎編集『経済学全集』弘文堂, 内容見本, p. 3, 1954年11月(発行日記載なし), (有沢広巳・山田盛太郎・脇村義太郎との共同クレジット). ★
- 「経済政策論」(執筆者の抱負), 有沢広巳・宇野弘蔵・山田盛太郎・脇村義太郎編集『経済学全集』弘文堂, 内容見本, p. 5, 1954年11月(発行日記載なし). ★
- 『恐慌論』, 博士論文(東京大学), 1954年12月4日. 【5】
- 「経済政策論」経済学全集第九巻(わが著書を語る), 『Books』Booksの会, No. 56, p. 15,

1954年12月5日. ★

『経済政策論』〈経済学全集IX〉, 弘文堂, 1954年12月15日. 【7】

宇野弘蔵著『経済政策論』〈経済学全集IX〉, 弘文堂, 1954年12月15日, (監修). 【7】

「経済学は何に役立つか」, 宇野弘蔵著『経済政策論』〈経済学全集IX〉弘文堂, 乘No.1, pp.1-3, 1954年12月15日. 【別】

「農業統計研究部会」, 『昭和二十九年度 財団法人統計研究会概要』統計研究会, pp.11-12, 1954年度(発行月日記載なし), (「農業統計研究部会主査」としてクレジット). ★

1955年

大河内一男著『労働問題』〈経済学全集XI〉, 弘文堂, 1955年1月10日, (監修). ★

土屋喬雄著『日本経済史』〈経済学全集VI〉, 弘文堂, 1955年2月15日, (監修). ★

鈴木鴻一郎著『マルクス経済学』〈経済学全集IV〉, 弘文堂, 1955年3月15日, (監修). ★

『米価変動と農産物価格の理論』〈農業統計研究資料(一六)〉, 統計研究会, 1955年3月(発行日記載なし), (監修), (クレジットなし¹³⁾). ★

『農産物政策価格と生産費』〈農業統計研究資料(一七)〉, 統計研究会, 1955年3月(発行日記載なし), (監修), (「農業統計研究部会主査」としてクレジット). ★

「経済学者の立場から法律学への疑問——法学の社会科学的研究方法について」, 『法律時報』日本評論新社, 第27卷第4号(通卷第299号), pp.11-23, 1955年4月1日, (座談会). ★

『経済原論』〈経済学演習講座5〉, 青林書院, 1955年4月10日, (編書), (「はしがき」および「問題」と「解答」は【2】). ★

『日本農業年報II——国際的にみた食糧問題と漁業』, 中央公論社, 1955年4月25日, (近藤康男・山田勝次郎・山田盛太郎との共同監修). ★

「栗原君に対する弔詞」(1955年5月27日), 『宇野弘蔵著作集 別巻——学問と人と本』岩波書店, pp.115-116, 1974年8月16日. 【別】

中山伊知郎編集委員代表『経済学大辞典 第I卷』, 東洋経済新報社, 1955年6月20日, (「編集委員」としてクレジット). ★

大内兵衛・武田隆夫著『財政学』〈経済学全集XIV〉, 弘文堂, 1955年7月20日, (監修). ★

中山伊知郎編集委員代表『経済学大辞典 第II卷』, 東洋経済新報社, 1955年9月30日, (「編集委員」としてクレジット). ★

舞出長五郎・横山正彦著『経済学史』〈経済学全集V〉, 弘文堂, 1955年9月30日, (監修). ★

「農業統計研究部会」, 『昭和二十九年度研究業務報告書』統計研究会, pp.38-43, 1955年9月(発行日記載なし), (「主査」としてクレジット). ★

『日本農業年報III——一兆円予算第二年度の農政』, 中央公論社, 1955年10月25日, (近藤康男・山田勝次郎・山田盛太郎との共同監修). ★

「あとがき」, 『日本農業年報III——一兆円予算第二年度の農政』中央公論社, pp.277-278, 1955年10月25日, (近藤康男・山田勝次郎・山田盛太郎との共同クレジット). ★

「帝国主義論の方法について」, 『思想』岩波書店, 第377号, pp.59-72, 126, 1955年11月5日, (『『資本論』と社会主義』に収録). 【10】

矢内原忠雄・楊井克己著『国際経済論』(経済学全集Ⅷ), 弘文堂, 1955年12月20日, (監修). ★

中山伊知郎編集委員代表『経済学大辞典 第Ⅲ卷』, 東洋経済新報社, 1955年12月25日, (『編集委員』としてクレジット). ★

「マルクス学派」, 中山伊知郎編集委員代表『経済学大辞典 第Ⅲ卷』東洋経済新報社, pp.211-228, 1955年12月25日, (『マルクス経済学概要』と改題し『社会科学としての経済学』に収録), (『マルクス学派』と再改題し【別】に収録).

「農業統計研究部会」, 『昭和三十年度 財団法人統計研究会概要』統計研究会, pp.9-10, 1955年度(発行月日記載なし), (『農業統計研究部会主査』としてクレジット). ★

1956年

「経済学全集」(わが著書を語る), 『Books』Booksの会, No.69, pp.19-20, 1956年1月5日, (有沢広巳・山田盛太郎・脇村義太郎との共同クレジット). ★

「経済学における論証と実証」, 『思想』岩波書店, 第379号, pp.19-32, 1956年1月5日, (『マルクス経済学原理論の研究』に収録). 【4】

「世界経済と日本経済」(大内兵衛先生還暦記念論文集(下)), 岩波書店, 1956年1月25日, (有沢広巳・向坂逸郎との共編), (『あとがき』は【別】). ★

「あとがき」, 有沢広巳・宇野弘蔵・向坂逸郎編『世界経済と日本経済』(大内兵衛先生還暦記念論文集(下)), 岩波書店, pp.431-432, 1956年1月25日. 【別】

鈴木武雄著『金融論』(経済学全集X V), 弘文堂, 1956年1月30日, (監修). ★

「小説を必要とする人間——『文学の楽しみ』」, 『知性』河出書房, 第3巻第3号, pp.232-237, 1956年3月1日, (河盛好蔵との対談), (『小説を必要とする人間』と改題し『資本論に学ぶ』に収録). ★

『経済学 上巻』(角川全書24), 角川書店, 1956年3月10日, (編書), (『序論』は【9】). ★

「はしがき」, 宇野弘蔵編『経済学 上巻』(角川全書24)角川書店, p.3, 1956年3月10日. ★

「序論」, 宇野弘蔵編『経済学 上巻』(角川全書24)角川書店, pp.15-24, 1956年3月10日. 【9】

「資本主義の発達と構造」, 宇野弘蔵編『経済学 上巻』(角川全書24)角川書店, pp.25-184, 1956年3月10日, (大島清との共著). ★

『米価と小作料・生産費の統計的理論的考察』(農業統計研究資料(一八)), 統計研究会, 1956年3月(発行日記載なし), (監修), (『農業統計研究部会主査』としてクレジット). ★

『経済学 下巻』(角川全書25), 角川書店, 1956年4月5日, (編書). ★

大阪市立大学経済研究所編『増訂 経済学小辞典』, 岩波書店, 1956年4月10日, (『編集委員』としてクレジット). ★

「資本(その二)」, 「資本の回転」, 「資本の転形(変態)」, 大阪市立大学経済研究所編『増

- 訂 経済学小辞典』岩波書店, pp. 419-422, pp. 452-454, pp. 460-461, 1956年4月10日, (「資本(その二)」は「資本」と改題し【別】に収録). 【別】
- 「序」, 栗原百寿著『農業問題の基礎理論』時潮社, pp. 1-2, 1956年4月18日. 【別】
- 『日本農業年報IV——豊作の経済学』, 中央公論社, 1956年4月30日, (近藤康男・山田勝次郎・山田盛太郎との共同監修). ★
- 「市場価値論について」, 『社会科学研究』東京大学社会科学協会, 第7巻第5号, pp. 1-21, 1956年5月10日, (『マルクス経済学原理論の研究』に収録). 【4】
- 「エンゲルス 史的唯物論について——『空想から科学への社会主義の発展』イギリス版序文」, 大内兵衛・向坂逸郎監修・岡崎次郎訳者代表『マルクス・エンゲルス選集第12巻——反デューリング論(II)』新潮社, pp. 133-158, 1956年5月15日, (玉野井芳郎との共訳). ★
- 『日本農業年報V——農民運動の現状と展望』, 中央公論社, 1956年10月25日, (近藤康男・山田勝次郎・山田盛太郎との共同監修). ★
- 有沢広巳・内藤勝著『統計学』(経済学全集X VI), 弘文堂, 1956年11月10日, (監修). ★
- 大塚久雄著『欧州経済史』(経済学全集VII), 弘文堂, 1956年11月10日, (監修). ★
- 「研修」, 『創立十周年記念出版 総研十年』(農業総合研究所刊行物 第144号)農林省農業総合研究所, pp. 48-51, 1956年11月28日. 【別】
- 「『資本論』の核心」, 大内兵衛・向坂逸郎監修・向坂逸郎編『マルクス・エンゲルス選集第14巻——資本論解説』新潮社, 月報8, pp. 1-3, 1956年11月30日. 【別】
- 「日本資本主義の特殊構造と農業問題」, 『日本農業の全貌』第四巻 日本資本主義と農業執筆要旨(日本農業の全貌 研究資料 第五三集)農業総合研究所, pp. 1-4, 1956年11月(発行日記載なし). ★
- 「日本資本主義と経済学」, 『経済評論』日本評論新社, 復刊第5巻(通巻11巻)第12号, pp. 46-64, 1956年12月1日, (座談会). ★
- 「農業統計研究部会」, 『昭和三十一年度 財団法人統計研究会概要』統計研究会, pp. 7-8, 1956年度(発行月日記載なし), (『農業統計研究部会主査』としてクレジット). ★

1957年

- 「いわゆる窮乏化の法則について」, 一橋大学経済研究所編『経済研究』岩波書店, 第8巻第1号, pp. 50-53, 1957年1月20日, (『マルクス経済学原理論の研究』に収録). 【4】
- 「銀メダル」, 『図書』岩波書店, 第89号, pp. 12-13, 1957年2月10日. 【別】
- 「『資本論』と社会主義」, 『経済評論』日本評論新社, 復刊第6巻(通巻12巻)第4号, pp. 90-99, 1957年4月1日, (『『資本論』と社会主義』に収録). 【10】
- 「対決する二つの経済学」, 『経済評論』日本評論新社, 復刊第6巻(通巻12巻)第5号, pp. 68-69, 1957年5月1日, (『M・E・E』名義で執筆), (『社会科学の根本問題』に収録). 【10】
- 『日本農業年報VI——戦後農業理論の動向』, 中央公論社, 1957年5月25日, (近藤康男・山田勝次郎・山田盛太郎との共同監修). ★

「『資本論辞典』の編集に当つて」, 1957年7月 (発行日記載なし), (久留間鮫造・岡崎次郎・杉本俊朗・大島清との共同クレジット), (執筆者に送られた執筆依頼文). ★

『農産物価格の理論的統計的研究』〈農業統計研究資料(一九)〉, 統計研究会, 1957年7月 (発行日記載なし), (監修), (『農業統計研究部会主査』としてクレジット). ★

『地租改正の研究 上巻』〈東京大学社会科学研究所研究叢書 第十冊〉, 東京大学出版会, 1957年8月31日, (編書), (『地租改正の土地制度』は【8】. その他は★).

「序」, 宇野弘蔵編『地租改正の研究 上巻』〈東京大学社会科学研究所研究叢書第十冊〉 東京大学出版会, pp.1-2, 1957年8月31日. ★

『地租改正の土地制度』, 宇野弘蔵編『地租改正の研究 上巻』〈東京大学社会科学研究所研究叢書第十冊〉 東京大学出版会, pp.1-36, 1957年8月31日, (『増補 農業問題序論』に収録). 【8】

古谷弘著『現代経済学——生産分析』〈経済学全集III〉, 弘文堂, 1957年9月10日, (監修). ★

「科学と道徳」, 『経済評論』日本評論新社, 復刊第6巻(通巻12巻)第10号, pp.82-83, 1957年10月1日, (『M・G・E』名義で執筆), (『社会科学の根本問題』に収録). 【10】
「学究生活の思い出」, 『思想』岩波書店, 第401号, pp.101-110, 1957年11月5日. 【別】
大内力編『現代日本資本主義大系 第3巻——農業』, 弘文堂, 1957年11月20日, (大内兵衛・有沢広巳・向坂逸郎との共同監修). ★

「こんとんたる一年——今年の総括」, 『経済評論』日本評論新社, 復刊第6巻(通巻12巻)第12号, pp.148-156, 1957年12月1日, (座談会). ★

「マルクス経済学とその発展 [1]」, 『経済セミナー』日本評論新社, 第10号, pp.9-12, 1957年12月1日, (『社会科学の根本問題』に収録). 【9】

「忘れ得ぬ級友故「西 雅雄」——西は高中的同窓生である」, 『有終』岡山県立高梁高校新聞部, 第8号(通算第54号), pp.14-15, 1957年12月20日, (「忘れ得ぬ級友 故西雅雄」と改題し【別】に収録).

楫西光速編『現代日本資本主義大系 第2巻——中小企業』, 弘文堂, 1957年12月20日, (大内兵衛・有沢広巳・向坂逸郎との共同監修). ★

「農業統計研究部会」, 『昭和三十二年度 財団法人統計研究会概要』統計研究会, p.8, 1957年度(発行日記載なし), (『農業統計研究部会主査』としてクレジット). ★

「日本資本主義の特殊構造と農業問題」, 『日本資本主義と農業(その二)——第一章第一節 第二章第一・二節』〈日本農業の全貌 研究資料 第五六集〉農業総合研究所, pp.1-14, 発行年月日記載なし, (『増補 農業問題序論』に収録). 【8】

1958年

「マルクス経済学とその発展 [2]」, 『経済セミナー』日本評論新社, 第11号, pp.9-12, 1958年1月1日, (『社会科学の根本問題』に収録). 【9】

「『マルクスと農民』」, 東畑精一・盛永俊太郎監修・農業発達史調査会編『日本農業発達史第十巻——明治以降における』中央公論社, 日本農業発達史の集 No.10, pp.2-3, 1958年1月5日. ★

- 高橋正雄編『現代日本資本主義大系 第7卷——世界と日本』, 弘文堂, 1958年1月25日, (大内兵衛・有沢広巳・向坂逸郎との共同監修). ★
- 「日本資本主義の現段階——監修者座談会」, 高橋正雄編『現代日本資本主義大系 第7卷——世界と日本』弘文堂, pp. 253-318, 1958年1月25日, (座談会). ★
- 「『資本論』の利子論における貨幣資本家について」, 森戸辰男・大内兵衛編『経済学の諸問題』(久留間鮫造教授還暦記念論文集)法政大学出版局, pp. 1-26, 1958年1月31日, (『マルクス経済学原理論の研究』に収録). 【4】
- 「マルクス経済学とその発展【3】」, 『経済セミナー』日本評論新社, 第12号, pp. 9-15, 1958年2月1日, (『社会科学の根本問題』に収録). 【9】
- 岡崎三郎編『現代日本資本主義大系 第6卷——政治』, 弘文堂, 1958年2月20日, (大内兵衛・有沢広巳・向坂逸郎との共同監修). ★
- 「経済学四十年」, 『社会科学研究——宇野弘蔵教授還暦記念号』東京大学社会科学協会, 第9卷第4・5合併号, pp. 173-208, 1958年2月20日, (座談会), (『経済学を語る』に収録). ★
- 「農業統計研究部会」, 『統計研究会十年史』(創立十周年記念出版)統計研究会, pp. 129-154, 1958年3月20日, (「主査」としてクレジット). ★
- 『日本農業年報VII——日本農業と農業協同組合』, 中央公論社, 1958年3月25日, (近藤康男・山田勝次郎・山田盛太郎との共同監修). ★
- 『農産物価格と自家労賃』(農業統計研究資料(二〇)), 統計研究会, 1958年3月(発行日記載なし), (監修), (『農業統計研究部会主査』としてクレジット). ★
- 相原茂編『現代日本資本主義大系 第4卷——労働』, 弘文堂, 1958年4月10日, (大内兵衛・有沢広巳・向坂逸郎との共同監修). ★
- 『地租改正の研究 下巻』(東京大学社会科学研究所研究叢書 第十二冊), 東京大学出版会, 1958年4月10日, (編書), (「秩禄処分について」は【8】. その他は★).
- 「はしがき」, 宇野弘蔵編『地租改正の研究 下巻』(東京大学社会科学研究所研究叢書 第十二冊)東京大学出版会, 頁数記載なし, 1958年4月10日. ★
- 「秩禄処分について」, 宇野弘蔵編『地租改正の研究 下巻』(東京大学社会科学研究所研究叢書 第十二冊)東京大学出版会, pp. 1-34, 1958年4月10日, (『増補 農業問題序論』に収録). 【8】
- 『資本論研究』, 至誠堂, 1958年4月25日, (向坂逸郎との共編), (合本再刊). ★
- 「経済学の反省(2)——現代経済学の問題点」, 山田雄三・板垣与一・木村元一編『経済学の学び方』白桃書房, pp. 365-370, 1958年4月28日, (『経済学の反省——現代経済学の問題点』と改題し【9】に収録).
- 武田隆夫編『現代日本資本主義大系 第5卷——財政』, 弘文堂, 1958年5月30日, (大内兵衛・有沢広巳・向坂逸郎との共同監修). ★
- 「農民運動史の基礎資料整備編纂並に農民運動の社会経済的諸影響に関する研究」, 『昭和30年度 農林水産業応用試験研究 概要報告書』農林水産技術会議, pp. 2-3, 1958年5月(発行日記載なし), (大島清・一柳茂次・遊上孝一との共同クレジット). ★

- 「マルクスの経済理論をいかに把えるか——〈宇野弘蔵教授に聞く〉」、『経済セミナー』日本評論新社、第19号、pp.53-66、1958年7月1日、(伊東光晴との対談)、(「マルクスの経済理論をいかに把えるか」と改題し『社会科学としての経済学』に収録)。★
鈴木鴻一郎編『現代日本資本主義大系 第1巻——独占資本』、弘文堂、1958年8月10日、(大内兵衛・有沢広巳・向坂逸郎との共同監修)。★
『『資本論』と社会主義』、岩波書店、1958年10月29日。【10】
「マルクス経済学とマルクス主義哲学」、宇野弘蔵著『『資本論』と社会主義』岩波書店、pp.1-12、1958年10月29日。【10】
「マルクスの価値尺度論」、楊井克巳・大河内一男・大塚久雄編『古典派経済学研究』(矢内原忠雄先生還暦記念論文集(上))、岩波書店、pp.202-222、1958年11月4日、(『マルクス経済学原理論の研究』に収録)。【4】
「私の唯物史観」、『講座 現代倫理 第一巻——モラルの根本問題』筑摩書房、月報10、pp.2-4、1958年11月30日。【別】
『日本農業年報Ⅷ——農業技術の新段階』、中央公論社、1958年12月20日、(近藤康男・山田勝次郎・山田盛太郎との共同監修)。★
「労働力の価値と価格——労働力商品の特殊性について」、『社会労働研究』法政大学社会学部学会、第10号、pp.2-16、1958年12月25日、(『マルクス経済学原理論の研究』に収録)。【4】

1959年

- 「恐慌の必然性は如何にして論証さるべきか——川合一郎君の疑問に答う」、『思想』岩波書店、第415号、pp.47-59、1959年1月5日、(「恐慌の必然性は如何にして論証さるべきか——川合一郎君の疑問に答う」と改題し『マルクス経済学原理論の研究』に収録)、(「恐慌の必然性はいかにして論証さるべきか——川合一郎君の疑問に答う」と再改題し【4】に収録)。
「「『資本論』と社会主義」をめぐって(1)」、『法政』法政大学、第8巻第3号(通号82号)、pp.35-37、1959年3月1日、(松村一人との対談)、(「理論と実践について——『資本論と社会主義』をめぐって」と改題し『資本論に学ぶ』に収録)。★
『日本資本主義と農業』(日本農業の全貌 第四巻)〈農業総合研究所発行物 第186号〉、農林省農業総合研究所、1959年3月31日、(東畑精一との共編)、(「日本資本主義の特殊構造と農業問題」は『増補 農業問題序論』に収録【8】。その他は★)。
「序論」、東畑精一・宇野弘蔵編『日本資本主義と農業』(日本農業の全貌 第四巻)〈農業総合研究所発行物 第186号〉農林省農業総合研究所、pp.1-16、1959年3月31日、(綿谷赳夫との共著)。★
「日本資本主義の特殊構造と農業問題」、東畑精一・宇野弘蔵編『日本資本主義と農業』(日本農業の全貌 第四巻)〈農業総合研究所発行物 第186号〉農林省農業総合研究所、pp.17-29、1959年3月31日、(『増補 農業問題序論』に収録)。【8】
『農産物価格の研究』(農業統計研究資料(21))、統計研究会、1959年3月(発行日記載)

- なし), (監修), (クレジットなし¹⁴⁾). ★
- 「経済学と唯物史観——経済学方法論覚え書」, 『経済評論』日本評論新社, 復刊第8巻(通卷14巻)第4号, pp.2-12, 1959年4月1日, (『社会科学の根本問題』に収録). 【9】
- 「「資本論」と社会主義」をめぐって(2), 『法政』法政大学, 第8巻第4号(通号83号), pp.43-45, 1959年4月1日, (松村一人との対談), (「理論と実践について——『資本論と社会主義』をめぐって」と改題し『資本論に学ぶ』に収録). ★
- 「中井君とザボン」, 中井淳集編集委員会編『中井淳集——こけし発掘者』刀江書院, pp.143-144, 1959年4月29日. 【別】
- 「「資本論」と社会主義」をめぐって(3), 『法政』法政大学, 第8巻第5号(通号84号), pp.44-46, 1959年5月1日, (松村一人との対談), (「理論と実践について——『資本論と社会主義』をめぐって」と改題し『資本論に学ぶ』に収録). ★
- 鈴木鴻一郎著『続マルクス経済学』(経済学全集XVII), 弘文堂, 1959年6月15日, (監修). ★
- 『マルクス経済学原理論の研究』, 岩波書店, 1959年6月25日. 【4】
- 「利子率について」, 宇野弘蔵著『マルクス経済学原理論の研究』岩波書店, pp.237-254, 1959年6月25日. 【4】
- 「資本主義と土地所有——大内力君の新著『地代と土地所有』を読む」, 『経済評論』日本評論新社, 復刊第8巻(通卷14巻)第7号, pp.109-115, 1959年7月1日, (『マルクス経済学の諸問題』に収録). 【4】
- 「蔵書と書棚」, 『図書』岩波書店, 第118号, pp.2-4, 1959年7月10日. 【別】
- 『日本資本主義と農業』(日本農業の全貌 第四巻), 岩波書店, 1959年7月31日, (東畠精一との共編), (「日本資本主義の特殊構造と農業問題」は『増補 農業問題序論』に収録【8】. その他は★).
- 「序論」, 東畠精一・宇野弘蔵編『日本資本主義と農業』(日本農業の全貌 第四巻)岩波書店, pp.1-16, 1959年7月31日, (綿谷赳夫との共著). ★
- 「日本資本主義の特殊構造と農業問題」, 東畠精一・宇野弘蔵編『日本資本主義と農業』(日本農業の全貌 第四巻)岩波書店, pp.17-29, 1959年7月31日, (『増補 農業問題序論』に収録). 【8】
- 『経済原論』(新経済学演習講座)(改版), 青林書院, 1959年8月20日, (編書), (「はしがき」および「問題」と「解答」は【2】. 「改版に際して」およびその他は★), (のちに講座名が「現代経済学演習講座」に変更, 出版社名が「青林書院新社」に変更).
- 『穀物条例と古典経済学』(農業統計研究資料(22)), 統計研究会, 1959年9月(発行日記載なし), (監修), (クレジットなし¹⁵⁾). ★

1960年代

1960年

- 『農家の自家労賃と雇用労賃』(農業統計研究資料(23)), 統計研究会, 1960年3月(発

- 行日記載なし), (監修), (「農業統計研究部会主査」としてクレジット). ★
『農産物価格理論とその現実適用』(農業統計研究資料(24)), 統計研究会, 1960年3月(発行日記載なし), (監修), (クレジットなし¹⁶⁾). ★
「経済学における原理論と段階論——『金融資本論』における両者の混同について」, 『思想』岩波書店, 第433号, pp.1-14, 1960年7月5日, (「ヒルファディング『金融資本論』における原理論と段階論との混同について」と改題し『経済学方法論』に収録), (「経済学における原理論と段階論——『金融資本論』における両者の混同について」と再改題し『社会科学の根本問題』に収録), (「ヒルファディング『金融資本論』における原理論と段階論との混同について」と再々改題し【9】に収録).
「戸原四郎著『ドイツ金融資本の成立過程』」, 『朝日新聞 朝刊』朝日新聞東京本社, 第26819号, 7面, 1960年9月16日, (書評). 【別】
鈴木鴻一郎編『経済学原理論 上』(経済学体系2), 東京大学出版会, 1960年11月25日, (監修). ★
『経済原論I 普及版』(新経済学演習講座), 青林書院, 1960年12月15日, (編書), (「はしがき」および「問題」と「解答」は【2】. 「普及版序」およびその他は★).
『経済原論II 普及版』(新経済学演習講座), 青林書院, 1960年12月15日, (編書), (「はしがき」および「問題」と「解答」は【2】. 「普及版序」およびその他は★).

1961年

- 楊井克巳編『世界経済論』(経済学体系6), 東京大学出版会, 1961年2月10日, (監修). ★
『日本農村経済の実態——安定経済下における』(東京大学社会科学研究所研究報告 第十二集), 東京大学出版会, 1961年2月25日, (編書). ★
「はしがき」, 宇野弘蔵編『日本農村経済の実態——安定経済下における』(東京大学社会科学研究所研究報告 第十二集) 東京大学出版会, 1961年2月25日. ★
『米価と農家経済』(農業統計研究資料(25)), 統計研究会, 1961年3月(発行日記載なし), (監修), (「農業統計研究部会主査」としてクレジット). ★
武田隆夫編『帝国主義論 上』(経済学体系4), 東京大学出版会, 1961年5月31日, (監修). ★
『資本論辞典』, 青木書店, 1961年6月15日, (久留間鯨造・岡崎次郎・大島清・杉本俊朗との共編). ★
「序」, 久留間鯨造・宇野弘蔵・岡崎次郎・大島清・杉本俊朗編集『資本論辞典』青木書店, pp.I-III, 1961年6月15日, (久留間鯨造・岡崎次郎・大島清・杉本俊朗との共同クレジット). ★
「個別的価値と社会的価値」, 「三位一体的定式」, 「市場価格」, 「市場価値」, 「市場生産価格」, 「資本」, 「資本の変態」, 「社会的欲望」, 「需要供給の関係」, 「生産費」, 「超過利潤」, 「物神性」, 「『資本論』の構成」(新田俊三との共著), 久留間鯨造・宇野弘蔵・岡崎次郎・大島清・杉本俊朗編集『資本論辞典』青木書店, pp.154-155, pp.174-176, p.179, pp.179-182, pp.182-183, pp.193-202, pp.223-225, pp.233-235, pp.248-249, p.310, pp.349

- 350, pp. 391-395, pp. 605-632, 1961年6月15日, (「『資本論』の構成」は★). 【別】
「編集者あとがき」, 久留間鮫造・宇野弘蔵・岡崎次郎・大島清・杉本俊朗編集『資本論辞典』青木書店, pp. 1-3, 1961年6月15日, (『資本論辞典編集委員会』としてクレジット). ★
「櫛田さんの思い出」, 『法政』法政大学, 第10卷第12号(通号115号), pp. 19-21, 1961年12月1日. 【別】

1962年

- 「山川さんと私——『山川均自伝』を読んで」, 『図書』岩波書店, 第149号, pp. 15-17, 1962年1月1日. 【別】
「社会科学としての経済学の方法について」, 『現代と人間——第12回 駒場祭記念 学術講演集』東京大学教養学部第12回駒場祭委員会, pp. 217-242, 1962年2月1日, (『社会科学としての経済学の方法について——東京大学教養学部での講演から』と改題し『社会科学としての経済学』に収録). 【別】
『経済学方法論』(経済学体系1), 東京大学出版会, 1962年2月20日. 【9】
宇野弘蔵著『経済学方法論』(経済学体系1), 東京大学出版会, 1962年2月20日, (監修). 【9】
『農産物価格と農家経済——米麦・野菜作地帯調査報告』(農業統計研究資料(26)), 統計研究会, 1962年3月(発行日記載なし), (監修), (『農業統計研究部会主査』としてクレジット). ★
鈴木鴻一郎編『経済学原理論 下』(経済学体系3), 東京大学出版会, 1962年7月10日, (監修). ★
「理論と実践について——森信成君の批評に答える」, 『思想』岩波書店, 第459号, pp. 61-76, 1962年9月5日, (『社会科学の根本問題』に収録). 【10】
大内力著『日本経済論 上』(経済学体系7), 東京大学出版会, 1962年9月15日, (監修). ★

1963年

- 「経済学の方法について」, 農業総合研究所研究員会議における報告・質疑応答の速記録(1963年1月23日開催), pp. 1-51, 1963年2月16日, (会議当日の標題は「農業問題の方法について」), (『『資本論』と私』に収録). ★
「市場価値について——山本二三丸氏の批評に答える」, 『社会労働研究』法政大学社会学部学会, 第15号, pp. 29-60, 1963年3月20日, (『マルクス経済学の諸問題』に収録). 【4】
『農産物価格と農家経済——米麦・畜産地帯調査報告』(農業統計研究資料(27)), 統計研究会, 1963年3月(発行日記載なし), (監修), (『農業統計研究部会主査』としてクレジット). ★
『経済学の方法』(経済学ゼミナール(1)), 法政大学出版局, 1963年5月(発行日記載なし). ★
『価値論の問題点』(経済学ゼミナール(2)), 法政大学出版局, 1963年6月(発行日記載なし). ★
「社会科学研究所の十五年」, 東京大学社会科学研究所編『社会科学研究』有斐閣, 第15

卷第1号, pp.115-138, 1963年8月28日, (座談会), (『社会科学研究所の30年——年表・座談会・資料』東京大学社会科学研究所, 1977年3月に収録). ★

「東京大学社会科学研究所 創立十五周年記念式典記事」, 東京大学社会科学研究所編『社会科学研究』有斐閣, 第15卷第1号, p.142, 1963年8月28日, (挨拶・祝辞の要旨). ★

「一冊の本——マルクス『資本論』」, 『朝日新聞 朝刊』朝日新聞東京本社, 第27897号, 18面, 1963年9月8日. 【別】

『恐慌論・商業利潤論の諸問題』(『経済学ゼミナール(3)』), 法政大学出版局, 1963年9月(発行日記載なし). ★

大内力著『日本経済論 下』(『経済学体系8』), 東京大学出版会, 1963年12月15日, (監修). ★

1964年

「恐慌論に関する——高木幸二郎氏の所説その他を題材に」, 遊部久藏・大島清・大内力・杉本俊朗・玉野井芳郎・三宅義夫編『資本論講座 第7分冊——恐慌 資本論以後』

青木書店, pp.328-349, 1964年3月1日, (『マルクス経済学の諸問題』に収録). 【4】

『農産物価格と農家経済——米麦・果樹作地帯調査報告』(『農業統計研究資料(28)』), 統計研究会, 1964年3月(発行日記載なし), (監修), (『農業統計研究部会主査』としてクレジット). ★

『経済原論』(岩波全書259), 岩波書店, 1964年5月11日. 【2】

「批評はお手やわらかに願いたい」, 『図書』岩波書店, 第178号, pp.21-22, 1964年6月1日. 【別】

「高橋里美先生と私」, 『思想』岩波書店, 第482号, pp.106-109, 1964年8月5日. 【別】

「矢内原さんのこと」, 矢内原忠雄著『矢内原忠雄全集 第十八巻——時論I』岩波書店, 月報18, pp.1-3, 1964年8月11日. 【別】

「マルクスの価値尺度論について——久留間鮫造さんの批評に答える」, 『思想』岩波書店, 第483号, pp.41-57, 1964年9月5日, (『マルクス経済学の諸問題』に収録). 【4】

「社会主義と経済学」(1964年11月), 宇野弘蔵著『資本論に学ぶ』(UP選書146)東京大学出版会, pp.66-106, 1975年9月10日, (東京大学経済学部土曜講座). ★

「マルクス主義と現代」, 『思想』岩波書店, 第486号, pp.44-65, 1964年12月5日, (遠藤湘吉との対談), (『経済学を語る』に収録). ★

「「貨幣の資本への転化」について——降旗節雄君の批評に答える」, 『社会労働研究』法政大学社会学部学会, 第11卷第3号(通巻第21号), pp.13-40, 1964年12月20日, (『マルクス経済学の諸問題』に収録). 【4】

1965年

遠藤湘吉編『帝国主義論 下』(『経済学体系5』), 東京大学出版会, 1965年1月10日, (監修). ★

「梅本克己氏の批評に答える——経済学と唯物史観」, 『日本読書新聞』日本出版協会, 第1291号, 2面, 1965年1月18日, (『梅本克己氏の批評に答える』と改題し【10】に

収録).

- 「マルクスの方法と社会科学」, 『学生学会報——ゼミナール大会報告集』法政大学社会学部学生学会, 第4号, pp.2-28, 1965年1月25日, (「マルクス経済学と社会科学」と改題し『社会科学としての経済学』に収録, 「質疑応答」は★), (「マルクス経済学と社会科学——法政大学社会学部での講演から」と再改題し【別】に収録).
- 『米作の変動と農産物価格』〈農業統計研究資料(29)〉, 統計研究会, 1965年3月(発行日記載なし), (監修), (『農業統計研究部会主査』としてクレジット). ★
- 『増補 農業問題序論』〈青木全書〉, 青木書店, 1965年6月1日. 【8】
- 「社会主義と経済学」, 『思想』岩波書店, 第495号, pp.1-12, 1965年9月5日, (『社会科学の根本問題』に収録). 【10】
- 『価値論』〈青木全書〉, 青木書店, 1965年9月20日, (再刊). 【3】
- 「先生に初めて会った頃のこと」, 大内会編『山麓集』〈大内兵衛先生喜寿記念隨想集〉出版社記載なし, pp.7-10, 1965年10月29日, (「大内先生に初めて会った頃のこと」と改題し【別】に収録).
- 「資本論に学ぶ」(1965年11月6日), 宇野弘蔵著『資本論に学ぶ』〈UP選書146〉東京大学出版会, pp.3-41, 1975年9月10日, (茨城大学における講演). ★
- 「「科学」における原理構成の論理」, 『法政大学新聞』法政大学新聞学会, 第551号, 1面, 1965年11月20日, (「マルクス主義とは何か」と改題し『社会科学の根本問題』に収録). 【10】

1966年

- 「社会科学と弁証法」, 『思想』岩波書店, 第499号, pp.82-97, 1966年1月5日, (梅本克己との対談), (『社会科学と弁証法』に収録). ★
- 「社会科学と弁証法(続)」, 『思想』岩波書店, 第500号, pp.93-109, 1966年2月5日, (梅本克己との対談), (『社会科学と弁証法』に収録). ★
- 「思想の言葉」, 『思想』岩波書店, 第501号, pp.56-57, 1966年3月5日, (「ロシア革命における一実例」と題し『社会科学の根本問題』に収録), (『思想の言葉』として【10】に収録).
- 『米作の北進と農産物価格』〈農業統計研究資料(30)〉, 統計研究会, 1966年3月(発行日記載なし), (監修), (『農業統計研究部会主査』としてクレジット). ★
- 「経済学のすすめ」, 『経済セミナー』日本評論社, 第119号, pp.4-11, 1966年4月1日, (『社会科学としての経済学』に収録). 【9】
- 「刊行にさいして」, 大島清・松井保男編『栗原百寿——その人と憶い出』栗原百寿追憶文集刊行会, pp.7-8, 1966年4月30日, (近藤康男・大島清との共同クレジット). ★
- 「栗原君とスター・リン事件」, 大島清・松井保男編『栗原百寿——その人と憶い出』栗原百寿追憶文集刊行会, pp.62-64, 1966年4月30日. 【別】
- 『資本論辞典 縮刷普及版』, 青木書店, 1966年5月1日, (久留間鯫造・岡崎次郎・大島清・杉本俊朗との共編). ★

「普及版への序」、久留間鯨造・宇野弘蔵・岡崎次郎・大島清・杉本俊朗編集『資本論辞典 縮刷普及版』青木書店、頁数記載なし、1966年5月1日、(「資本論辞典編集委員会」としてクレジット)。★

「序」、久留間鯨造・宇野弘蔵・岡崎次郎・大島清・杉本俊朗編集『資本論辞典 縮刷普及版』青木書店、pp. I - III、1966年5月1日、(久留間鯨造・岡崎次郎・大島清・杉本俊朗との共同クレジット)。★

「個別の価値と社会的価値」、「三位一体的定式」、「市場価格」、「市場価値」、「市場生産価格」、「資本」、「資本の変態」、「社会的欲望」、「需要供給の関係」、「生産費」、「超過利潤」、「物神性」、「《資本論》の構成」(新田俊三との共著)、久留間鯨造・宇野弘蔵・岡崎次郎・大島清・杉本俊朗編集『資本論辞典 縮刷普及版』青木書店、pp. 154-155、pp. 174-176、p. 179、pp. 179-182、pp. 182-183、pp. 193-202、pp. 223-225、pp. 233-235、pp. 248-249、p. 310、pp. 349-350、pp. 391-395、pp. 605-632、1966年5月1日、(「《資本論》の構成」は★)。【別】

「編集者あとがき」、久留間鯨造・宇野弘蔵・岡崎次郎・大島清・杉本俊朗編集『資本論辞典 縮刷普及版』青木書店、pp. 1-3、1966年5月1日、(「資本論辞典編集委員会」としてクレジット)。★

「科学とイデオロギー——中野正君の『産業循環論』を読む」、「唯物史観」河出書房新社、復刊第2号、pp. 194-216、1966年5月20日、(『マルクス経済学の諸問題』に収録)。【10】

「「イデオロギーと科学」について——梅本君らの論評にこたえる」、「展望」筑摩書房、第91号、pp. 74-84、1966年7月1日、(『マルクス経済学の諸問題』に収録)。【10】

「宇野経済学をめぐって——第一回 原理論の問題点」、「一橋新聞」一橋大学一橋新聞部、第800号、4-6面、1966年8月30日、(座談会)、「経済学方法論の問題点」と改題し『経済学を語る』に収録)。★

『社会科学の根本問題』(青木全書)、青木書店、1966年9月25日。【7、9、10、別】

「資本論五十年」、「朝日新聞 夕刊」朝日新聞東京本社、第29024号、9面、1966年10月19日。★

「宇野経済学をめぐって——第二回 段階論の問題点、その他」、「一橋新聞」一橋大学一橋新聞部、第803号、3-4面、1966年10月30日、(座談会)、「とくに段階論について」と改題し『経済学を語る』に収録)。★

「恐慌論の課題」(1966年10月22日)、宇野弘蔵著『資本論に学ぶ』(UP選書146)東京大学出版会、pp. 42-65、1975年9月10日、(武藏大学土曜講座)。★

「故 小林芥樹 追悼」、「故 小林芥樹 追悼」発行所記載なし、pp. 1-3、1966年11月14日。【別】

「米価と生産費に関する調査研究」、「事業実績一覧 昭和41年度」統計研究会、p. 2、1966年度(発行月日記載なし)、「農業統計研究部会主査」としてクレジット)。★

1967年

『新訂 経済原論』(現代経済学演習講座)、青林書院新社、1967年1月31日、(編書)、(「は

- しがき」および「問題」と「解答」は【2】). ★
- 「現状分析について」, 玉城肇著『現代日本産業発達史 29——総論(上)』現代日本産業発達史研究会, 月報 9, pp. 1-3, 1967 年 2 月 15 日. 【別】
- 「私と『資本論』——宇野弘蔵氏に聞く」, 『図書新聞』図書新聞社, 第 899 号, 1-3 面, 1967 年 3 月 4 日, (渡辺寛との対談), (『『資本論』と私』と改題し『経済学を語る』に収録). ★
- 「私と『資本論』——宇野弘蔵氏に聞く つづき」, 『図書新聞』図書新聞社, 第 900 号, 3 面, 1967 年 3 月 11 日, (渡辺寛との対談), (『『資本論』と私』と改題し『経済学を語る』に収録). ★
- 「恐慌論の課題」, 『社会労働研究』法政大学社会学部学会, 第 13 卷第 4 号(通巻第 30 号), pp. 1-14, 1967 年 3 月 20 日, (『マルクス経済学の諸問題』に収録). 【4】
- 『技術信託と請負耕作における米生産費』(農業統計研究資料(31)), 統計研究会, 1967 年 3 月 (発行日記載なし), (監修), (『農業統計研究部会主査』としてクレジット). ★
- 「宇野弘蔵教授を囲んで——『社会科学の根本問題』を素材として」, 『学園』東京大学教養学部学友会, 第 41 号, pp. 48-59, 96, 1967 年 4 月 1 日, (座談会), (『社会科学の根本問題』と改題し『経済学を語る』に収録). ★
- 「「社会主義は闇に面するか光に面するか」」, 『図書』岩波書店, 第 212 号, pp. 2-4, 1967 年 4 月 1 日. 【別】
- 「資本の物神性について」, 『唯物史観』河出書房新社, 復刊第 4 号, pp. 16-24, 1967 年 4 月 30 日, (『マルクス経済学の諸問題』に収録). 【4】
- 「『資本論』と『帝国主義論』」, 『思想』岩波書店, 第 515 号, pp. 55-74, 1967 年 5 月 5 日, (梅本克己との対談), (『社会科学と弁証法』に収録). ★
- 『考える人／五つの箱 人間の開放 岩波文庫より』(岩波文庫創刊 40 年 1927-67), 岩波書店, 1967 年 6 月 (発行日記載なし), (『選者』としてクレジット), (小冊子『考える人——五つの箱 岩波文庫より』岩波書店は 1968 年 7 月に発行). ★
- 「『資本論』と『帝国主義論』(続)」, 『思想』岩波書店, 第 517 号, pp. 54-73, 1967 年 7 月 5 日, (梅本克己との対談), (『社会科学と弁証法』に収録). ★
- 「経済学とはどういうものか——42 年度夏期スクーリング中の講演より」, 『法政』法政大学, 第 16 卷第 9 号(通号 184 号), pp. 34-42, 1967 年 9 月 1 日, (『経済学はどういう学問か』と改題し『社会科学としての経済学』に収録), (『経済学はどういう学問か——法政大学通信教育 42 年度夏期スクーリング中の講演から』と再改題し【別】に収録).
- 『資本論研究 I——商品・貨幣・資本』, 筑摩書房, 1967 年 9 月 10 日, (編書). ★
- 『経済学を語る』(UP 選書 1), 東京大学出版会, 1967 年 9 月 20 日, (『はしがき』は【別】). ★
- 「河上肇博士の外国留学無用論」, 『図書』岩波書店, 第 218 号, pp. 2-3, 1967 年 10 月 1 日. 【別】
- 『資本論研究 II——剩余価値・蓄積』, 筑摩書房, 1967 年 10 月 25 日, (編書). ★
- 「初版『資本論』を持っています——刊行 100 年によせて」(新・告知板 234), 『アサヒグラフ』朝日新聞社, 通巻 2279 号, p. 84, 1967 年 11 月 3 日. ★

- 「『資本論』と弁証法」、務台理作・古在由重編『岩波講座 哲学1——哲学の課題』岩波書店, pp. 137-156, 1967年11月27日, (『マルクス経済学の諸問題』に収録). 【4】
- 『資本論研究Ⅲ——資本の流通過程』、筑摩書房, 1967年12月10日, (編書). ★
- 「集団栽培における米作と米生産費の研究」、『事業実績一覧 昭和42年度』統計研究会, p. 2, 1967年度 (発行月日記載なし), (『農業統計研究部会主査』としてクレジット). ★
- 「『資本論研究』発刊の辞¹⁷⁾, 所載刊行物名不明, 全2頁, 1967年 (発行月日不明), (同内容の別タイトル「発刊の辞」もあり). ★

1968年

- 『資本論研究Ⅳ——生産価格・利潤』、筑摩書房, 1968年1月25日, (編書). ★
- 「思想の言葉」、『思想』岩波書店, 第524号, pp. 80-81, 1968年2月5日. 【10】
- 「利子論〔最終講義〕」、『社会労働研究』法政大学社会学部学会, 第14卷第4号 (通卷第34号), pp. 150-179, 1968年3月15日, (pp. 163-171, 177-179は★). 【5】
- 「農業統計研究部会」、『統計研究会20年史』統計研究会, pp. 113-135, 1968年3月30日, (「主査」としてクレジット). ★
- 『集団栽培と米作生産力——昭和42年度食糧庁委託調査報告書』〈農業統計研究資料(32)〉、統計研究会, 1968年3月 (発行月記載なし), (監修), (『農業統計研究部会主査』としてクレジット). ★
- 「マルクス経済学の課題——疑問と批判に答え宇野弘蔵氏語る」、『一橋新聞』一橋大学一橋新聞部, 第830号, 1, 3面, 1968年4月16日, (萩原進との対談), (『マルクス経済学の課題』と改題し『資本論に学ぶ』に収録). ★
- 『資本論研究Ⅴ——利子・地代』、筑摩書房, 1968年4月25日, (編書). ★
- 「マルクスと私」、『思想』岩波書店, 第527号, pp. 157-160, 1968年5月5日. 【別】
- 「マルクス経済学の課題(下)——疑問と批判に答え宇野弘蔵氏語る」、『一橋新聞』一橋大学一橋新聞部, 第832号, 4-5面, 1968年5月16日, (萩原進との対談), (『マルクス経済学の課題』と改題し『資本論に学ぶ』に収録). ★
- 「経済学と『人類の英知』」、『図書』岩波書店, 第226号, pp. 20-23, 1968年6月1日. 【別】
- 「何のための帝国主義論々議か——見田石介氏の批評を読む」、『経済評論』日本評論社, 復刊第17卷(通卷23卷)第7号, pp. 88-100, 1968年6月1日, (『マルクス経済学の諸問題』に収録), (『何のための帝国主義論論議か——見田石介氏の批評を読む』と改題し【10】に収録).
- 『資本論入門』〈青木全書〉、青木書店, 1968年10月10日, (再刊). 【6】
- 「資本制生産の基本的矛盾とその解決——梅本克己君の批評に答える」、『思想』岩波書店, 第533号, pp. 12-25, 1968年11月5日, (『マルクス経済学の諸問題』『社会科学と弁証法』に収録). 【10】

1969年

シドニ&ベアトリス・ウェップ著・高野岩三郎監訳『産業民主制論』〈法政大学大原社会

- 問題研究所 覆刻シリーズ》，法政大学出版局，1969年2月1日，（久留間鉄造・越智道順・山村喬・山名義鶴との共訳），（覆刻版）。★
- 『米価と生産・所得の関係』〈農業統計研究資料（33）〉，統計研究会，1969年3月（発行日記載なし），（監修），（「農業統計研究部会委員長」としてクレジット）。★
- 『社会科学としての経済学』〈筑摩叢書138〉，筑摩書房，1969年5月15日。【9, 別】
- 『マルクス経済学の諸問題』，岩波書店，1969年10月18日。【4, 10】
- 『資本論の経済学』〈岩波新書（青版）733〉，岩波書店，1969年11月20日。【6】

1970年代

1970年

- 『資本論五十年（上）』，法政大学出版局，1970年2月16日，（「はしがき」は【別】）。★
- 「経済学と哲学」，『思想』岩波書店，第549号，pp.79-82，1970年3月5日。【別】
- 『米価・米作所得と労賃の研究——食糧庁昭和44年度委託調査報告書』〈農業統計研究資料（34）〉，統計研究会，1970年3月（発行日記載なし），（監修），（「農業統計研究部会委員長」としてクレジット）。★
- 「最近の大学・学生問題・その他——宇野弘蔵先生に聞く」，『法政』法政大学，第19巻第11号（通号221号），pp.3-21，1970年11月1日，（日高普との対談），（「最近の大学・学生問題・その他」と改題し『経済学の効用』に収録）。★

1971年

- 『経済政策論 改訂版』，弘文堂，1971年2月25日。【7】
- 「弁証法の矛盾について——梅本克己君の答えを待つ」，『思想』岩波書店，第561号，pp.29-46，1971年3月5日，（『社会科学と弁証法』に収録）。【10】
- 「戦争政策と社会主義——国家独占資本主義をめぐって」，『日本読書新聞』日本出版協会，第1589号，1-2面，1971年3月29日，（インタビュー），（「国家独占資本主義をめぐって——『経済政策論』の方法と課題」と改題し『資本論に学ぶ』に収録）。★
- 『米の生産調整と農家経済——食糧庁昭和45年度委託調査報告書』〈農業統計研究資料（35）〉，統計研究会，1971年3月（発行日記載なし），（監修），（「農業統計研究部会委員長」としてクレジット）。★
- 「宇野経済学——その切り開いた道——「原理論」の方法と現状分析」，『情況』情況出版，通巻32号，pp.5-19，1971年5月1日，（インタビュー），（「原理論の方法と現状分析」と改題し『資本論に学ぶ』に収録）。★
- 「森信成君を惜しむ」，大阪唯物論研究会編『知識と労働』知識と労働社，第3号，pp.97-99，1971年12月1日。【別】

1972年

- 『経済学の効用』〈UP選書89〉，東京大学出版会，1972年2月25日，（「序」は【別】）。★

「経済学と社会主義経済——マルクス経済学と近代経済学」, 宇野弘蔵著『経済学の効用』(UP選書89) 東京大学出版会, pp.1-217, 1972年2月25日, (関根友彦との対談). ★

『米の生産調整と転作問題——食糧庁昭和46年度委託調査報告書』(農業統計研究資料(36)), 統計研究会, 1972年3月 (発行日記載なし), (監修), (「農業統計研究部会委員長」としてクレジット). ★

1973年

『講座 帝国主義の研究——両大戦間におけるその再編成 第1巻 帝国主義論の形成』, 青木書店, 1973年3月10日, (監修). ★

『米の生産調整と兼業化問題——食糧庁昭和47年度委託調査報告書』(農業統計研究資料(37)), 統計研究会, 1973年3月 (発行日記載なし), (監修), (「農業統計研究部会委員長」としてクレジット). ★

『講座 帝国主義の研究——両大戦間におけるその再編成 第3巻 アメリカ資本主義』, 青木書店, 1973年4月25日, (監修). ★

『講座 帝国主義の研究——両大戦間におけるその再編成 第6巻 日本資本主義』, 青木書店, 1973年6月25日, (監修). ★

『資本論五十年(下)』, 法政大学出版局, 1973年10月15日. ★

『宇野弘蔵著作集 第一巻——経済原論Ⅰ』, 岩波書店, 1973年10月16日.

『宇野弘蔵著作集 第二巻——経済原論Ⅱ』, 岩波書店, 1973年11月16日.

『宇野弘蔵著作集 第三巻——価値論』, 岩波書店, 1973年12月17日.

1974年

『宇野弘蔵著作集 第四巻——マルクス経済学原理論の研究』, 岩波書店, 1974年1月16日.

『宇野弘蔵著作集 第五巻——恐慌論』, 岩波書店, 1974年2月18日.

『宇野弘蔵著作集 第六巻——資本論の経済学』, 岩波書店, 1974年3月18日.

『米の生産調整と日本農業——食糧庁昭和48年度委託調査報告書』(農業統計研究資料(38)), 統計研究会, 1974年3月 (発行日記載なし), (監修), (「農業統計研究部会委員長」としてクレジット). ★

『宇野弘蔵著作集 第七巻——経済政策論』, 岩波書店, 1974年4月16日.

『栗原百寿著作集』刊行によせて, 所載刊行物名不明, 校倉書房, 1974年4月 (発行日不明). 【別】

『宇野弘蔵著作集 第八巻——農業問題序論』, 岩波書店, 1974年5月16日.

『宇野弘蔵著作集 第九巻——経済学方法論』, 岩波書店, 1974年6月17日.

『宇野弘蔵著作集 第十巻——資本論と社会主義』, 岩波書店, 1974年7月16日.

『宇野弘蔵著作集 別巻——学問と人と本』, 岩波書店, 1974年8月16日.

「未定稿Ⅰ」, 『宇野弘蔵著作集 別巻——学問と人と本』岩波書店, pp.423-435, 1974年8月16日, (1946年執筆の未定稿). 【別】

「未定稿Ⅱ」, 『宇野弘蔵著作集 別巻——学問と人と本』岩波書店, pp.436-488, 1974年

8月16日, (1946年執筆の未定稿). 【別】

1975年

- 『70年代シェーレの研究——農産物価格と工産物価格——食糧庁昭和49年度委託調査報告書』〈農業統計研究資料(39)〉, 統計研究会, 1975年3月(発行日記載なし), (監修), (『農業統計研究部会委員長』としてクレジット). ★
- 『講座 帝国主義の研究——両大戦間におけるその再編成 第2巻 世界経済』, 青木書店, 1975年5月28日, (監修). ★
- 『資本論に学ぶ』(UP選書146), 東京大学出版会, 1975年9月10日. ★
- 『講座 帝国主義の研究——両大戦間におけるその再編成 第4巻 イギリス資本主義』, 青木書店, 1975年11月1日, (監修). ★
- 『農産物価格と農家購入品価格との変動的相関関係に関する研究』, 『事業実績一覧 昭和50年度』統計研究会, pp.10-11, 1975年度(発行日記載なし), (『農業統計研究部会委員長』としてクレジット). ★

1976年

- 『社会科学と弁証法』, 岩波書店, 1976年1月26日, (梅本克己との共著). ★
- 『農産物価格と農家購入品価格との変動的相関関係に関する研究——食糧庁昭和50年度委託調査報告書』(農業統計研究資料(40)), 統計研究会, 1976年3月(発行日記載なし), (監修), (『農業統計研究部会委員長』としてクレジット).
- 『『資本論』と私』, 『社会科学のために』時潮社, 1976春季号, pp.1-2, 1976年4月30日, (『『資本論』と私』に収録). ★
- 『特異な存在であった梅本君』, 梅本克己著作集編集委員会編・解題『梅本克己著作集 全十巻』三一書房, 内容見本, 1976年(発行日記載なし). ★

没後

- 『資本論入門』(講談社学術文庫146), 講談社, 1977年6月10日, (再刊). 【6】
- 『遺稿』恐慌論, 『思想』岩波書店, 第638号, pp.141-160, 1977年8月5日, (法政大学大院公開講義, 1955年10月8日), (『恐慌論』と改題し『『資本論』と私』に収録). ★
- 『経済原論』, 岩波書店, 1977年11月10日, (合本改版). 【1】
- 『資本論入門第二巻解説』, 岩波書店, 1977年11月10日, (再刊). 【6】
- 『資本主義——その発達と構造』(角川選書5), 角川書店, 1978年6月30日, (大内力・大島清との共著). ★
- Principles of Political Economy: Theory of a Purely Capitalist Society*, Translated from the Japanese by Thomas T. Sekine (Marxist Theory and Contemporary Capitalism 24), The Harvester Press Limited, 1980年(発行日記載なし). ★
- 『資本論五十年(上)』, 法政大学出版局, 1981年4月25日, (新装版). ★

- 『資本論五十年（下）』、法政大学出版局、1981年4月25日、（新装版）。★
- 「ナチス広域経済と植民地問題」、『季刊クライシス』社会評論社、第25号、pp.106-150、1986年2月15日、（降旗節雄・解題）、「原料資源と植民地」と改題し『現代資本主義の原型』に収録）。★
- 日本貿易研究所編『輸出ブラシ工業 中巻（復刻版）』、日本経済評論社、1989年10月1日、（クレジットなし¹⁸⁾）、（復刻版）。★
- 「輸出ブラシ工業」刊行会編『輸出ブラシ工業 下巻』、日本経済評論社、1989年10月1日、（クレジットなし¹⁹⁾）。★
- 『资本论辞典』、南开大学出版社、1989年12月（発行日記載なし）、（久留間鉄造・宇野弘藏等編、薛敬孝・李樹果・王健宜译）。★
- 「編者序言」、久留間鉄造・宇野弘藏等編、薛敬孝・李樹果・王健宜译『资本论辞典』南开大学出版社、pp.4-6、1989年12月（発行日記載なし）、（久留間鉄造・岡崎次郎・大島清・杉本俊朗との共同クレジット）。★
- 「拜物教」、「超额利润」、「个别价值与社会价值」、「供求关系」、「三位一体公式」、「社会需要」、「生产费用」、「市场价格」、「市场价值」、「市场生产价格」、「资本」、「资本的形态变化」、「《资本论》的结构」（新田俊三との共著）、久留間鉄造・宇野弘藏等編、薛敬孝・李樹果・王健宜译『资本论辞典』南开大学出版社、pp.1-8、pp.27-30、pp.65-67、pp.89-92、pp.417-420、pp.471-473、pp.482-483、pp.526-528、pp.528-533、p.534、pp.737-753、pp.755-758、pp.1055-1102、1989年12月（発行日記載なし）。★
- Postwar Reconstruction of the Japanese Economy*, Edited by the Special Survey Committee, Ministry of Foreign Affairs, Japan (September 1946), Compiled by Saburo Okita, University of Tokyo Press, 1992年（発行日記載なし）、（「The leading members of the committee」としてクレジット）。★
- 『『資本論』と社会主义』（こぶし文庫5 戦後日本思想の原点）、こぶし書房、1995年6月30日、（降旗節雄編・解説）、（再刊）。【10】
- 『価値論』（こぶし文庫17 戦後日本思想の原点）、こぶし書房、1996年12月20日、（降旗節雄編・解説）、（再刊）。【3】
- 『現代資本主義の原型』、こぶし書房、1997年12月15日、（降旗節雄編）、（藤井洋との共著）。★
- 『社会科学と弁証法』（こぶし文庫45 戦後日本思想の原点）、こぶし書房、2006年11月30日、（いいだもも編・解説）、（梅本克己との共著）、（再刊）。★
- 『『資本論』と私』、御茶の水書房、2008年1月15日、（桜井毅・解説）。★
- 「『経済政策論』について」、『社会科学研究』東京大学社会科学研究所、第60巻第3・4号、pp.148-178、2009年2月16日、（（本郷）学士会館にて行われた研究会、1958年7月12日）、（桜井毅・山口重克・柴垣和夫・伊藤誠編著『宇野理論の現在と論点——マルクス経済学の展開』社会評論社、2010年7月に収録）。★
- 『恐慌論』（岩波文庫 白151-1）、岩波書店、2010年2月16日、（再刊）。【5】
- 『増補 農業問題序論』（こぶし文庫60 戦後日本思想の原点）、こぶし書房、2014年9月

25日, (田中学・解題), (再刊). 【8】

『資本論に学ぶ』〈ちくま学芸文庫 ウ 26-1〉, 筑摩書房, 2015年2月10日, (再刊). ★

『経済原論』〈岩波文庫 白 151-2〉, 岩波書店, 2016年1月15日, (再刊). 【2】

『社会科学としての経済学』〈ちくま学芸文庫 ウ 26-2〉, 筑摩書房, 2016年6月10日, (再刊). 【9, 別】

The Types of Economic Policies under Capitalism, Translated by Thomas T. Sekine and Edited by John R. Bell (Historical Materialism Book Series, Vol. 118), Leiden Brill, 2016年(発行月日記載なし), (hardback). ★

『資本論五十年(上)』, 法政大学出版局, 2017年5月18日, (改装版). ★

『資本論五十年(下)』, 法政大学出版局, 2017年5月18日, (改装版). ★

The Types of Economic Policies under Capitalism, Translated by Thomas T. Sekine and Edited by John R. Bell (Historical Materialism Book Series, Vol. 118), Haymarket Books, 2018年(発行月日記載なし), (paperback). ★

『経済学 上巻』〈角川ソフィア文庫 G256-1〉, KADOKAWA, 2019年5月25日, (編著), (再刊). ★

『経済学 下巻』〈角川ソフィア文庫 G256-2〉, KADOKAWA, 2019年5月25日, (編著), (再刊). ★

Theory of Crisis, Translated by Ken C. Kawashima (Historical Materialism Book Series, Vol. 251), Brill Academic Pub, 2021年(発行月日記載なし), (hardcover). ★

Theory of Crisis, Edited and Translated by Ken C. Kawashima (Historical Materialism Book Series, Vol. 251), Brill Academic Pub, 2023年(発行月日記載なし), (Paperback). ★

バジヨット著『ロンバード街——ロンドンの金融市場』〈岩波文庫 白 122-1〉, 岩波書店, 2023年6月15日, (翻訳), (翁邦雄・解説), (改版), (「訳者あとがき」は【別】。その他は★).

「訳者あとがき」, バジヨット著・宇野弘蔵訳『ロンバード街——ロンドンの金融市場』〈岩波文庫 白 122-1〉岩波書店, pp.427-432, 2023年6月15日. 【別】

宇野弘蔵 年譜[‡]

- 1897（明治 30）年 11 月 岡山県倉敷町（現・倉敷市）に生まれる（12 日）。父・和一郎、母・里、兄・淳一、姉・淑。
- 1904（明治 37）年 小学校に入学。
- 1910（明治 43）年 4 月 岡山県立高梁中学校に入学。
- 1915（大正 4）年 3 月 7 月 岡山県立高梁中学校を卒業。第六高等学校に入学。
- 1918（大正 7）年 7 月 第六高等学校を卒業²⁰⁾。
- 1921（大正 10）年 4 月 東京帝国大学法科大学独法科に入学。ただちに経済学科に転科。5 月 東京帝国大学経済学部経済学科を卒業²¹⁾。
- 1922（大正 11）年 7 月 9 月 大原社会問題研究所助手となる（東京勤務）²²⁾。高野マリアと結婚する（2 日）²³⁾。
- 1924（大正 13）年 9 月 10 月 経済学研究のためヨーロッパに留学し²⁴⁾、主としてベルリンに滞在。留学中に大原社会問題研究所助手を辞する（その後、在独中は嘱託）²⁵⁾。
- 1925（大正 14）年 1 月 ヨーロッパ留学を終えて帰国する²⁶⁾。
- 1927（昭和 2）年 東北帝国大学助教授となり、同大学法文学部に勤務（20 日）²⁷⁾ ²⁸⁾。
- 1931（昭和 6）年 9 月 長男・義郎が生まれる（20 日）。
- 1933（昭和 8）年 11 月 経済学第三講座（経済政策論）担当となる²⁹⁾。
- 1936（昭和 11）年 5 月 長女・郁子が生まれる。
- 1938（昭和 13）年 2 月 長女・郁子が病没。
- 12 月 次男・達二郎が生まれる（15 日）。
- 1939（昭和 14）年 5 月 和田佐一郎の代講で経済原論の講義を一年間行う³⁰⁾。
- 10 月 『経済政策論 上巻』（弘文堂書房）。
- 1940（昭和 15）年 12 月 いわゆる労農派教授グループ事件（第二次人民戦線事件）に連坐して仙台で検挙される（1 日）³¹⁾。
- 1941（昭和 16）年 1 月 治安維持法により起訴され、休職を命じられる（19 日）³²⁾。
- 3 月 検挙以来 1 年 3 か月ぶりに保釈される（1 日）³³⁾。
- 1944（昭和 19）年 6 月 仙台地方裁判所において第一審無罪の判決を受ける（16 日）³⁴⁾。宮城控訴院において第二審無罪の判決を受ける（23 日）³⁵⁾。東北帝国大学法文学部教授会で復職の決定をみたが（18 日）、これを辞退し辞職する（22 日）³⁶⁾。
- 財団法人日本貿易振興協会日本貿易研究所に勤務。
- 財団法人日本貿易振興協会日本貿易研究所を辞する。

- 7月 財団法人三菱経済研究所に勤務。
1946（昭和21）年 3月 東北帝国大学専任講師となる^{37) 38) 39) 40)}。
1947（昭和22）年 1月 財団法人三菱経済研究所を辞する。
東京帝国大学社会科学研究所嘱託となる（31日）⁴¹⁾。
6月 東京帝国大学教授となり、同大学社会科学研究所に勤務^{42) 43)}。
11月 『農業問題序論』（改造社）。
12月 『価値論』（河出書房）。
1948（昭和23）年 1月 『資本論入門』（白日書院）。
1949（昭和24）年 4月 『資本論の研究』（岩波書店）。
5月 『資本論入門第二巻解説』（白日書院）。
6月 東京大学社会科学研究所所長に就任（30日）⁴⁴⁾。
1950（昭和25）年 12月 『経済原論 上巻』（岩波書店、下巻は1952年3月刊）。
1952（昭和27）年 1月 東京大学社会科学研究所所長を辞任（31日）⁴⁵⁾。
9月 『価値論の研究』（東京大学出版会）。
1953（昭和28）年 1月 財団法人統計研究会理事となる⁴⁶⁾。
5月 東京大学大学院社会科学研究科兼務となり、理論経済学・経済史学専門課程を担当⁴⁷⁾。
9月 『恐慌論』（岩波書店）。
1954（昭和29）年 12月 経済学博士の学位を取得する（4日）⁴⁸⁾。
『経済政策論』（弘文堂）。
1958（昭和33）年 3月 定年のため東京大学を辞する（31日）⁴⁹⁾。
4月 法政大学社会学部教授となる⁵⁰⁾。
10月 『『資本論』と社会主义』（岩波書店）。
1959（昭和34）年 4月 法政大学大学院社会科学研究科兼務⁵¹⁾。
6月 『マルクス経済学原理論の研究』（岩波書店）。
1962（昭和37）年 2月 『経済学方法論』（東京大学出版会）。
1964（昭和39）年 5月 『経済原論』（岩波全書）。
1966（昭和41）年 9月 『社会科学の根本問題』（青木書店）。
1967（昭和42）年 9月 『資本論研究』（全5冊、筑摩書房）。
『経済学を語る』（東京大学出版会）。
定年のため法政大学を辞する⁵²⁾。
1968（昭和43）年 3月 法政大学大学院社会科学研究科講師となる。
4月 立正大学経済研究所嘱託となる⁵³⁾。
6月 法政大学大学院講師を辞する。
1969（昭和44）年 3月 『社会科学としての経済学』（筑摩書房）。
5月 『マルクス経済学の諸問題』（岩波書店）。
10月 『資本論の経済学』（岩波新書）。
11月 『資本論五十年（上）』（法政大学出版局、下巻は1973年10

	月刊)。
1971 (昭和46) 年 2月	『経済政策論 改訂版』(弘文堂)。
1972 (昭和47) 年 2月	『経済学の効用』(東京大学出版会)。
3月	立正大学経済研究所嘱託を辞する ⁵⁴⁾ 。
5月	脳梗塞で倒れ(21日), 以後病臥生活をおくる。
1973 (昭和48) 年 10月	『宇野弘蔵著作集』(全10巻・別巻1)が岩波書店より刊行される(1974年8月に完結)。
1975 (昭和50) 年 9月	『資本論に学ぶ』(東京大学出版会)。
1976 (昭和51) 年 1月	『社会科学と弁証法』(梅本克己との共著, 岩波書店)。
1977 (昭和52) 年 2月	藤沢市鶴沼の自宅で死去(22日)。享年79歳。鎌倉市の極楽寺に葬られる。
1980 (昭和55) 年	『経済原論』(英訳)。
1996 (平成 8) 年 10月	筑波大学付属図書館に蔵書および遺稿, 原稿, 書き込み手拓本, ノート等が収納され, 宇野文庫として公開される。
2008 (平成20) 年 1月	『『資本論』と私』(御茶の水書房)。
2010 (平成22) 年 2月	『恐慌論』(岩波文庫)。
2016 (平成28) 年	『経済政策論』(英訳)。
1月	『経済原論』(岩波文庫)。
2021 (令和 3) 年	『恐慌論』(英訳)。

注

- * 本研究はJSPS科研費22K13371の助成を受けたものである。
- † 本目録の作成にあたって、蔭川亮太氏をはじめ北星学園大学図書館の方々、清原文氏、久世泰子氏、杉本伸代氏、田中理沙氏をはじめ東京経済大学図書館の方々、桜井毅氏(武藏大学名誉教授)に大変お世話になった(順不同)。ここに記して感謝を申し上げる。
- 1) 『農業統計研究部会資料(1)~(11)』および『農業統計研究資料(12)~(36)』については、発行年月日の記載がないものや明らかな誤りがあるものが含まれているため、統一をはかるべく、公式に発表されている『統計研究会20年史』(統計研究会, 1968年3月)の「作成資料一覧」および『宇野弘蔵著作集 別巻』の「宇野弘蔵 著作目録」に記載の発行年月日にしたがっている。
- 2) 『宇野弘蔵著作集』に未収録の発行された著作物についての詳細は、拙稿「宇野弘蔵に関する新資料の解説——1929-1949」(『東京経学会誌(経済学)』東京経済大学経済学会, 第323号, 2024年12月), 同「宇野弘蔵に関する新資料の解説——1950-1977」(『東京経学会誌(経済学)』東京経済大学経済学会, 第325号, 2025年2月)を参照されたい。
- 3) 宇野弘蔵『資本論五十年(上)』(法政大学出版局, 1970年2月)174頁。
- 4) 宇野弘蔵『資本論五十年(上)』(法政大学出版局, 1970年2月)173頁。
- 5) 宇野弘蔵『資本論五十年(下)』(法政大学出版局, 1973年10月)560, 578頁。
- 6) 宇野弘蔵著・桜井毅解説『『資本論』と私』(御茶の水書房, 2008年1月)255頁。
- 7) 『昭和15年 産業人口の職業上の地位』(経済構造特別研究室資料 No.4) (商工省調査統計

- 局調査課, 1948年3月)「序」, 拙稿「宇野弘蔵に関する新資料の解説——1929-1949」(『東京経済大学会誌(経済学)』東京経済大学経済学会, 第323号, 2024年12月) 166-167頁。
- 8) 『宇野弘蔵著作集 別巻』「宇野弘蔵 著作目録」に記載。
 - 9) 『宇野弘蔵著作集 別巻』「宇野弘蔵 著作目録」に記載。
 - 10) 『宇野弘蔵著作集 別巻』「宇野弘蔵 著作目録」に記載。
 - 11) クレジットはないが, 「編者ら」(275頁)の一人称のもとで書かれた文章であることから本目録に記載している。
 - 12) 『宇野弘蔵著作集 別巻』「宇野弘蔵 著作目録」に記載。
 - 13) 『宇野弘蔵著作集 別巻』「宇野弘蔵 著作目録」に記載。
 - 14) 『宇野弘蔵著作集 別巻』「宇野弘蔵 著作目録」に記載。
 - 15) 『宇野弘蔵著作集 別巻』「宇野弘蔵 著作目録」に記載。
 - 16) 『宇野弘蔵著作集 別巻』「宇野弘蔵 著作目録」に記載。
 - 17) 「『資本論研究』発刊の辞」は, 筑波大学附属図書館「宇野文庫」に所蔵の「[宇野弘蔵旧蔵抜刷], [5]」(資料ID「11296012504」, 請求記号「宇野文庫-S-12」)の一部として収められており, 同じ内容の「発刊の辞」は, 『展望』(筑摩書房, 第109号, 1968年1月)に掲載の『資本論研究』の広告に記載されている。両文章ともに, 「ことしは『資本論』第一巻の発刊百年にあたっている」と書き始められていることから, 本文献を1967年の末尾に記載している。
 - 18) 宇野弘蔵『資本論五十年(下)』(法政大学出版局, 1973年10月) 560, 578頁。
 - 19) 宇野弘蔵『資本論五十年(下)』(法政大学出版局, 1973年10月) 578頁, 斎藤晴造「仙台時代の宇野先生」(『研究年報経済学』〈経済学部30周年記念〉東北大学経済学会, 特別号, 1980年3月) 31-32頁。
 - ‡ 本年譜を作成するにあたって, 『宇野弘蔵著作集 別巻』の「宇野弘蔵 年譜」および降旗節雄・伊藤誠共編『マルクス理論の再構築——宇野経済学をどう活かすか』(社会評論社, 2000年3月)の「宇野弘蔵 年譜」を参考とした。
 - 20) 『第六高等学校一覧 自大正七年至大正八年』(第六高等学校, 1919年2月) 288頁。
 - 21) 『東京帝国大学卒業生氏名録』(東京帝国大学, 1926年5月) 345頁。
 - 22) 大原社会問題研究所に在籍時の宇野については, 『大原社会問題研究所三十年史』(法政大学大原社会問題研究所, 1954年4月), 宇野弘蔵『資本論五十年(上)』(法政大学出版局, 1970年2月) 第3章。
 - 23) 『東京朝日新聞 朝刊』(東京朝日新聞社, 第12954号, 1922年6月28日) 5面。
 - 24) 留学出発時の乗船名簿は, 『日英新誌』(日英新誌社, 第7巻第83号, 1922年11月) 11-12頁。
 - 25) 宇佐美誠次郎「大原研究所所蔵の『資本論』初版本とクーゲルマン文庫, ハースバハ文庫など(下)」(『資料室報』法政大学大原社会問題研究所資料室, 第206号, 1974年8月) 11-12頁。
 - 26) 帰朝時の乗船名簿は, 『日英新誌』(日英新誌社, 第9巻第104号, 1924年8月) 11頁。
 - 27) 『官報』(印刷局, 第3650号, 1924年10月22日) 513頁。
 - 28) 宇野は1925年4月から1936年4月まで仙台高等工業学校の共通学科において講師を務めている。担当は「工業経済」。『仙台高等工業学校一覧 自大正十四年至大正十五年』(仙台高等工業学校, 1925年10月) 52, 134頁, 『仙台高等工業学校一覧 自昭和十一年至昭和十二年』(仙台高等工業学校, 1936年8月) 201頁。
- また, 1930年5月から仙台高等実務学校においても講師を務めている。担当は商業学「取

- 引所」、経済学「商業政策、工業政策」。『事業年報第七（昭和五年度）』（齋藤報恩会、1931年12月）395-398頁。『事業年報第八（昭和六年度）』（齋藤報恩会、1932年11月）369-371頁。
- 29) 『官報』（内閣印刷局、第3912号、1925年9月7日）159頁。
- 30) 1936年の「経済原論」講義については、斎藤晴造「解説」（『宇野弘蔵著作集 別巻』岩波書店、1974年8月）、同「仙台時代の宇野先生」（『研究年報 経済学』東北大学経済学会、経済学部30周年記念特別号、1980年3月）。
- 31) 検挙については、『河北新報 朝刊』（河北新報社、第14775号、1938年2月2日）7面。
- 32) 休職については、『官報』（内閣印刷局、第3595号、1938年12月27日）913頁。
- 33) 保釈については、『河北新報 朝刊』（河北新報社、第15226号、1939年5月3日）7面。
- 34) 『河北新報 夕刊』（河北新報社、第15393号、1939年10月17日）2面。
- 35) 『河北新報 朝刊』（河北新報社、第15823号、1940年12月24日）3面。
- 36) 『河北新報 朝刊』（河北新報社、第15851号、1941年1月22日）3面、『東北大学五十年史（上）』（東北大学、1960年1月）369-370頁。
- 37) 『東北大学五十年史（下）』（東北大学、1960年1月）1132頁。
- 38) 宇野は1947・48年度に東北大学法文学部において、非常勤講師を務めている。担当は「経済政策論」。1949年以降は経済学部において、連続講義「経済原論特殊講義」を担当。『東北大学五十年史（下）』（東北大学、1960年1月）1122、1149頁。
- 39) 終戦前後、宇野は上智大学で非常勤講師を務めている。佐藤直助「あのころの左翼紳士」（『大学時報』日本私立大学連盟、第23巻第116号、1974年5月）。
- また、1946年、愛知大学設立時に教員として名が記されている。『愛知大学10年の歩み』（愛知大学、1956年11月）23頁。
- 40) 宇野は1946年、法政大学にて兼任講師を務めている。柏野晴夫「宇野弘蔵教授最終講義における挨拶」（『社会労働研究』法政大学社会学部学会、第14巻第4号、1968年3月）180頁。
- 41) 『社会科学研究所の30年——年表・座談会・資料』（東京大学社会科学研究所、1977年3月）5頁。
- 42) 『官報』（印刷局、第6164号、1947年8月1日）7頁。
- 43) 宇野は1949年春、1950年5月、名古屋帝国大学にて「経済原論」の集中講義を実施している。五味久壽編『岩田弘遺稿集』（批評社、2015年12月）315頁、「戦後経済学会の成果と課題」（『経済評論』日本評論社、第5巻第12号、1950年12月）38頁。
- また、1954年の秋から、杉本栄一の後任として、一橋大学において「経済学特殊講義」を担当している。関根友彦『私が学んできた経済学——新古典派理論から宇野理論へ』（社会評論社、2024年1月）第1章、宇野弘蔵『経済学を語る』（UP選書）（東京大学出版会、1967年9月）60頁。
- 44) 所長就任については、『官報』（印刷局、第6753号、1949年7月19日）207頁、『社会科学研究所の30年——年表・座談会・資料』（東京大学社会科学研究所、1977年3月）8頁、『東京大学百年史部局史4』（東京大学出版会、1987年3月）382頁。
- 45) 所長辞任については、『官報』（印刷局、第7534号、1952年2月20日）405頁、『社会科学研究所の30年——年表・座談会・資料』（東京大学社会科学研究所、1977年3月）9-10頁、『東京大学百年史部局史4』（東京大学出版会、1987年3月）392-393頁。
- 46) 『統計研究会20年史』（統計研究会、1968年3月）5-6頁。

- 47) 『社会科学研究所の30年——年表・座談会・資料』(東京大学社会科学研究所, 1977年3月)
132頁, 『東京大学百年史部局史4』(東京大学出版会, 1987年3月) 397頁。
- 48) 『官報』(大蔵省印刷局, 第8419号, 1955年1月27日) 352頁。
- 49) 『東京大学百年史部局史4』(東京大学出版会, 1987年3月) 414頁。
- 50) 柏野晴夫「宇野弘蔵教授最終講義における挨拶」(『社会労働研究』法政大学社会学部学会, 第14卷第4号, 1968年3月) 180-181頁。
- 51) 『法政大学八十年史』(法政大学, 1961年8月) 482頁, 『法政大学百年史』(法政大学, 1980年12月) 378頁。
- 52) 柏野晴夫「宇野弘蔵教授最終講義における挨拶」(『社会労働研究』法政大学社会学部学会, 第14卷第4号, 1968年3月) 180-181頁。
- 53) 永谷清「資本論五十四年」(宇野マリア編『思い草』非売品, 1979年2月) 212-216頁。
- 54) 永谷清「資本論五十四年」(宇野マリア編『思い草』非売品, 1979年2月) 212-216頁。